

パブリックコメント用

第2期 燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(令和2年度～令和4年度)

(素案)



令和2年3月

目次

1. はじめに	3
(1) 第2期総合戦略策定の趣旨・背景	
(2) 第2期総合戦略の位置づけ	
(3) 第2期総合戦略の期間	
2. 国の第2期総合戦略策定に向けての基本的な考え方	6
3. 燕市人口ビジョン策定後の人口動向	8
4. 第1期総合戦略の成果・課題	9
(1) 基本目標・KPI(重要業績評価指標)の達成状況の評価	
(2) ≪プロジェクト① しごと≫つばめ産業ブランド創生プロジェクトの達成状況の評価	
(3) ≪プロジェクト② ひと≫若者・女性が輝くつばめプロジェクトの達成状況の評価	
(4) ≪プロジェクト③ まち≫ホストシティつばめプロジェクトの達成状況の評価	
(5) ≪フラッグシップ プロジェクト≫つばめ東京オリンピック・パラリンピックプロジェクトの達成状況の評価	
(6) 第1期総合戦略の総括(第2期総合戦略の基本的方向性)	
5. 第2期総合戦略	22
【プロジェクト① しごと】つばめ産業ブランド発信プロジェクト.....	24
(1) 生産性向上・技術の高度化	
(2) 労働環境の改善	
(3) 創業・事業継承の促進	
(4) 既存技術転用・ビジネスモデルの転換	
(5) 企業立地環境の整備	
(6) 新たな販路開拓	
【プロジェクト② ひと】若者・女性をはじめ全世代が輝くつばめプロジェクト.....	30
(1) UIJターン・就労支援	
(2) 官民一体なった結婚・子育て応援	
(3) 活躍するひとづくり	
【プロジェクト③ まち】訪れたい・住みたいまちつばめプロジェクト.....	34
(1) 魅力づくりと発信	
(2) 広域連携観光の促進	
(3) 持続可能性を意識したまちづくり	
(4) 地域力を活かした安全で安心なまち	
6. PDCAサイクルによる効果検証の実施	38
資料編	39

1.はじめに

(1) 第2期総合戦略策定の趣旨・背景

これまで地方創生として人口減少対策の取り組みを進めてきた現総合戦略（以下「第1期総合戦略」）が令和元年度末に終期を迎えます。

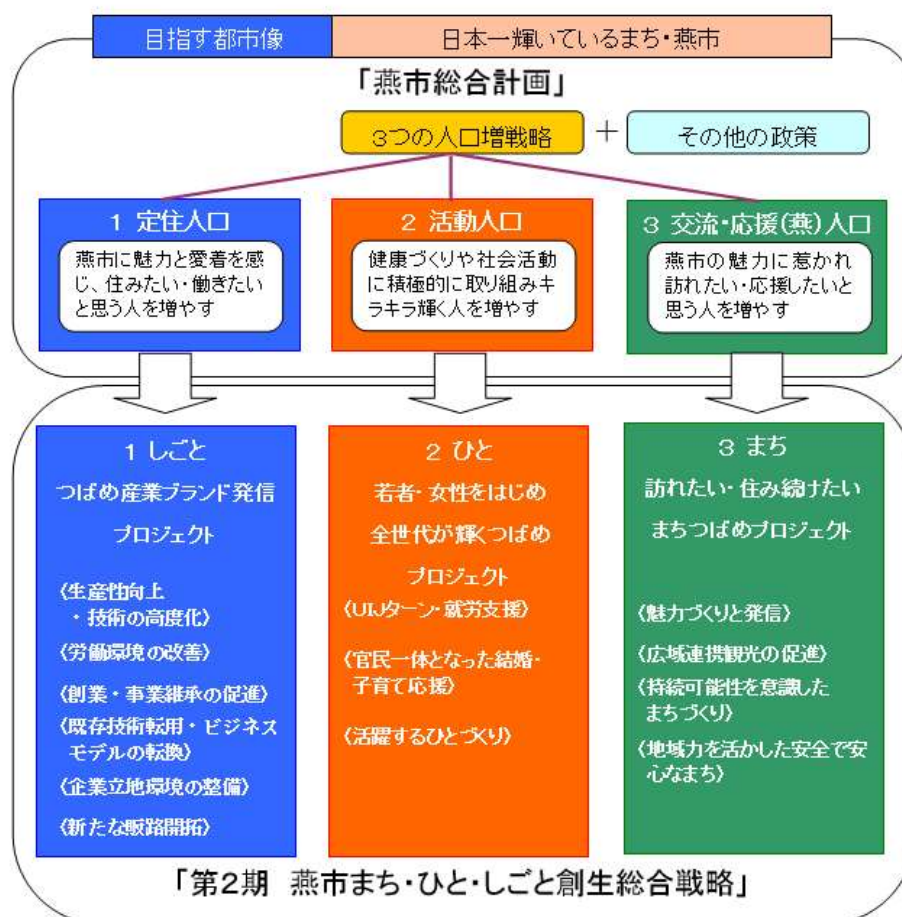
第1期総合戦略により推進してきた各種の取り組みは、「産業経済発展対策」「交流人口増加対策」をはじめ、「人口の自然減対策」「人口の社会減対策」においても個々の事業については、一定の成果を上げてきています。

しかしながら、全国的な「東京一極集中」や「少子高齢化・人口減少」の動向もあり、当市の人口ビジョンで展望した「社会増減を転出超過から均衡水準に改善」や「出生数600人維持」の達成は難しい状況にあります。

そこで、人口の社会減や自然減をはじめ、人口減少により起こりうる地域社会や地域経済の衰退などの問題に対し、「切れ目なく」対応し続けるため、「第2期総合戦略」を策定し、継続して地方創生に取り組むものとします。

(2) 第2期総合戦略の位置づけ

3つの人口増戦略を基本的方向性としている第2次総合計画に基づき、地域活力の向上のため、人口の維持又は減少幅抑制について、効果的と考えられる取り組みの方向性を定める計画で、国及び新潟県が策定する総合戦略を勘案した上で本市の実情に基づき定める計画です。



(3) 第2期総合戦略の期間

令和2年度（2020年度）～ 令和4年度（2022年度）【3年間】

※通常は5年間のところ、令和4年度末までに策定する第3次総合計画において、総合計画と総合戦略を一体化することにより、人口減少を前提とした地域社会のあり方の構築と総合的な対応策の展開を見据え、3年間に調整して策定します。

そのため、4年目以降においても総合計画との一体化を通して切れ目なく地方創生に継続して取り組むこととなります。

2. 国の第2期総合戦略策定に向けての基本的な考え方

まち・ひと・しごと創生基本方針2019（令和元年6月21日閣議決定）では、第2期総合戦略に向けての基本的な考え方が次のとおり示されています。

①全体の枠組

「継続を力にする」という姿勢で、次のステップに向けて歩みを確かなものとするため、「第2期総合戦略」を策定し、地方創生のより一層の充実・強化に取り組む。

②第1期の検証を踏まえた検討の方向性

- ・第1期の4つの基本目標と、情報支援、人材支援、財政支援という「地方創生版・三本の矢」の支援の枠組みを基本的に維持しつつ、「第2期における新たな視点」も踏まえ、必要な見直しを行う。

【4つの基本目標】

- ・地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする（しごとの創生）
- ・地方への新しいひとの流れをつくる（移住）
- ・若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
（若者雇用、女性活躍推進、子育て支援）
- ・時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する（まちづくり）

③第2期における新たな視点

○地方へのひと・資金の流れを強化する

→将来的な地方移住にもつながる「関係人口」を創出・拡大する。

○新しい時代の流れを力にする

→情報通信技術など Society5.0(※1)の実現に向けた技術の活用を地方創生の横断分野として位置づけて、強力に推進する。

※1. 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に次ぐ、第5の社会を意味し、AI・IoT・ロボット等の先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、様々な分野で、現在とは全く異なる社会を実現しようとする考え方。

→SDGs(※2)を原動力とした地方創生の推進に向け、多様なステークホルダーにおける一層の浸透・主流化を図る。

※2. 持続可能な世界を実現させるための国際社会全体における開発目標。達成目標には「すべての人々への公正な質の高い教育の提供」など17項目がある。

○人材を育て活かす

→地方創生の基盤をなす人材に焦点を当て、掘り起こしや育成、活躍に関する取り組みを強化する。

○民間と協働する

→NPO等の地域づくりを担う組織や企業などの民間による主体的な取り組みとも連携を強化する。

○誰もが活躍できる地域社会をつくる

→人口減少や少子高齢化が進行する中でも活気あふれる地域社会をつくるため、女性、高齢者、障害者、ひきこもり、外国人など誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現する。

○地域経営の視点で取り組む

→地域の強みを最大限に活用して地域外市場からの稼ぐ力を高め、域内において効率的な経済循環を創り出す。

3. 燕市人口ビジョン策定後の人口動向

当市の人口ビジョンを策定した平成 27 年から 4 年後の令和元年までの間において人口は、79,784 人(H27(2015).10 国勢調査人口)から 77,307 人(R 1 (2019).10 新潟県推計人口)へ 2,477 人減少しています。

この人口動向は、現時点において人口ビジョンで示した戦略的推計人口や、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）の予測する地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計※1）を下回っており、非常に厳しい状況となっています。

※1. 戦略的推計人口を算出するに当たり、参考とした平成 25 年 3 月推計と比較しています。なお、社人研は、平成 30 年 3 月にも地域別将来推計人口を発表しています。

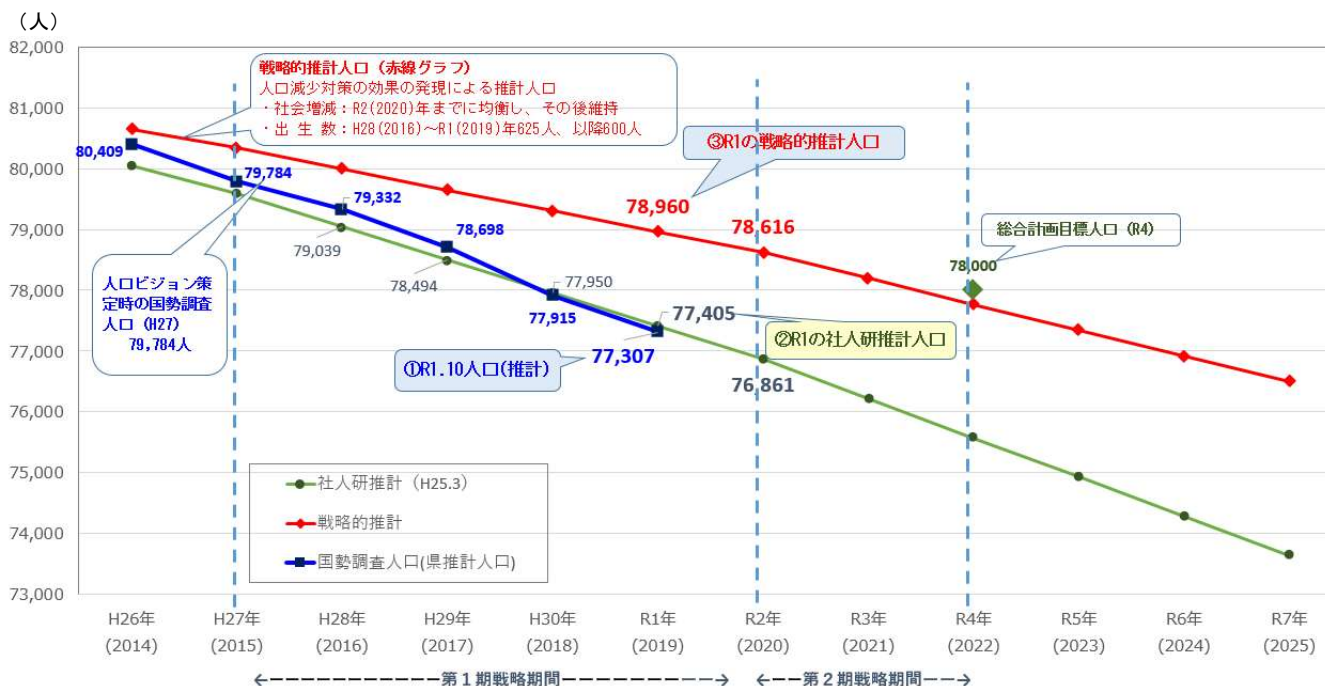
◇令和元年（令和元年 10 月 1 日時点）における人口の状況

- ①人口(※2)…………… 77,307 人
- ②社人研推計人口(※3)……… 77,405 人（①人口との比較：▲98 人）
- ③当市戦略的推計人口(※3) 78,960 人（①人口との比較：▲1,653 人）

※2. ①の新潟県推計人口は、国勢調査人口（H27 年）を基に、住民基本台帳法に基づく転出入等の届出数を加減することで算出した人口です。

※3. ②、③は、5 年刻みの推計値のため、H27(2015)年値と R4(2020)年値から割り返して算出した試算値です。

【第 1 期総合戦略期間の人口の推移】



4. 第1期総合戦略の成果・課題

平成27年9月の策定以降、これまで取り組みを進めてきた第1期総合戦略について、令和元年度末の計画期間終了を見据え、目標値やKPIを現時点の達成見込値等により評価した上で、成果や課題を分析します。

(1) 基本目標・KPI(重要業績評価指標)の達成状況の評価

「しごとプロジェクト」「まちプロジェクト」では、全ての基本目標で「基準値より改善」以上の成果を上げる見込みとなりました。また、KPIについても、「しごとプロジェクト」「まちプロジェクト」では全ての指標が「基準値より改善」以上となる見込みとなりました。

「ひとプロジェクト」では、基本目標の2指標がともに基準値を下回る見込みとなりました。一方でKPIは、ほとんどの指標で「基準値より改善」以上となる見込みとなりました。

「フラッグシッププロジェクト」では、基本目標は設定していませんが、東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする世界的イベントでの燕製金属洋食器の採用を目指す取り組みが順調に進んでいます。なお、KPIについては、ほとんどの指標で「基準値より改善」以上の結果となる見込みとなりました。

【各プロジェクトに関する基本目標の達成状況】

評価区分	目標値達成率(%)	しごとプロジェクト(3項目)	ひとプロジェクト(2項目)	まちプロジェクト(1項目)	フラッグシッププロジェクト	計(6項目)
達成(◎)	100%以上	1	0	1	【基本目標の設定無】	2
概ね達成(○)	90~100%	1	0	0		1
基準値より改善(△)	90%未満	1	0	0		1
改善を要する(▼)	基準値未満	0	2	0		2

【各プロジェクトに関するKPIの達成状況】

評価区分	目標値達成率(%)	しごとプロジェクト(15項目)	ひとプロジェクト(10項目)	まちプロジェクト(7項目)	フラッグシッププロジェクト(6項目)	計(38項目)
達成(◎)	100%以上	8 (53.3%)	7 (70.0%)	7 (100.0%)	1 (16.7%)	23 (60.5%)
概ね達成(○)	90~100%	1 (6.7%)	1 (10.0%)	0	0	2 (5.3%)
基準値より改善(△)	90%未満	5 (33.3%)	1 (10.0%)	0	4 (66.6%)	10 (26.3%)
改善を要する(▼)	基準値未満	1 (6.7%)	1 (10.0%)	0	1 (16.7%)	3 (7.8%)

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入

(2) 《プロジェクト① しごと》つばめ産業ブランド創生プロジェクトの達成状況の評価

製造業や農業といったものづくりの後継者や担い手を育成し、産地産業を維持・発展させ、継続的な雇用を創出することを目指し「販路開拓」、「新産業育成」、「担い手人材育成」に関する事業を進めてきました。

基本目標は、「市町村内総生産」で目標値の達成が見込まれます。「製造品出荷額等」、「従業者一人当たり製造業付加価値額」では、目標値に届いていないものの着実に進捗しています。

しかしながら、人手不足の深刻化などの地域経済の減速要因もあり、今後の見通しは予断を許さない状況にあることから、産地産業の維持・発展や雇用創出に向けた取り組みは、引き続き重要と考えます。

【基本目標に関する実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
製造品出荷額等 (4,310億円)	3,844億 6千万円 (H25年)	—	4,065億 3千万円 (H26年)	4,413億 2千万円 (H27年)	4,350億 9千万円 (H28年)	4,303億 1千万円 (H29年)	99.8% (○)
従業者一人 当たり製造業付 加価値額(950万円)	818万円 (H25年)	—	772万円 (H26年)	797万円 (H27年)	889万円 (H28年)	844万円 (H29年)	88.8% (△)
市町村内総 生産 (3,350億円)	3,225億円 (H24年度)	3,246億円 (H25年度)	3,178億円 (H26年度)	3,228億円 (H27年度)	3,524億円 (H28年度)	3,524億円 (H29年度)	105.2% (◎)

①販路開拓

ア. 地域ブランド化の推進

金属製タンブラー、アイスクリームスプーンなどにおけるコラボ商品の開発・販売等による「ものづくりのまち・燕市」のブランド力向上や、海外見本市出展に向けた支援等による産地産業グローバル展開支援事業を進めました。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
金属製品製造出荷額 (910億円)	826億 6千万円 (H25年)	—	857億 9千万円 (H26年)	906億 3千万円 (H27年)	957億 3千万円 (H28年)	955億 4千万円 (H29年)	105.0% (◎)
海外見本市出展企業数 [各支援機関補助制度活用企業数] (20社)	8社 (H26年度)	14社 (H27年度)	17社 (H28年度)	22社 (H29年度)	26社 (H30年度)	30社 (R元年度)	150.0% (◎)

イ. 広域連携による産業情報発信

燕三条地場産業振興センターによる海外販路開拓事業や燕三条ものづくりメッセの開催等を行いました。

【KPI (重要業績指標) と実績値 (実績見込値) の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
海外販路開 拓展開企業 輸出入額 (310億円)	259億 9千万円 (H24年)	201億 5千万円 (H25年)	247億 6千万円 (H26年)	267億 5千万円 (H27年)	239億 9千万円 (H28年)	171億 1千万円 (H29年)	55.2% (▼)
燕三条もの づくりメッ セの成約/見 積依頼/引合 い/相談件数 (3,000件)	1,600件 (H26年度)	1,900件 (H27年度)	1,936件 (H28年度)	2,557件 (H29年度)	2,863件 (H30年度)	2,900件 (R元年度)	96.7% (○)

②新産業育成・競争力強化

ア. 新産業育成

医療機器研究会による医療機器の研究・試作・開発や燕製フィギュアスケートのブレード開発など、次世代産業育成事業を進めました。

【KPI (重要業績指標) と実績値 (実績見込値) の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
医療機器メ ーカー依頼 の試作開発 件数[累計] (30件)	6件 (H27年 3月末)	9件 (H28年 3月末)	21件 (H29年 3月末)	33件 (H30年 3月末)	34件 (H31年 3月末)	36件 (R2年 3月末)	120.0% (◎)
薬機法にお ける製造業 等の許認可 を新たに取 得した企業 数[累計] (5社)	—	2社 (H28年 3月末)	5社 (H29年 3月末)	6社 (H30年 3月末)	6社 (H31年 3月末)	6社 (R2年 3月末)	120.0% (◎)
産学連携な どによる共 同研究数 [累計](1件)	—	0件 (H28年 3月末)	0件 (H29年 3月末)	1件 (H30年 3月末)	1件 (H31年 3月末)	1件 (R2年 3月末)	100.0% (◎)

イ. ものづくり現場力強化事業

小規模事業所でも取り組める品質管理第三者認証制度「燕市ものづくり品質管理制度(TSO)」などのものづくり現場力強化事業を進めました。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
認証事業所 数(TSO) [累計] (100社)	48社 (H27年 3月末)	50社 (H28年 3月末)	50社 (H29年 3月末)	51社 (H30年 3月末)	48社 (H31年 3月末)	53社 (R2年 3月末)	53.0% (△)
ものづくり 現場力強化 事業参加事 業所数 [累計] (23社)	13社 (H27年 3月末)	13社 (H28年 3月末)	23社 (H29年 3月末) ※H29.3事 業終了	—	—	—	100.0% (◎)

③人材育成

ア. 産地基盤技術の伝承

生産現場等で次代を担う監督者向けの研修や、高齢化などで失われつつあるナイフ製造職人の育成研修などを行うつばめ産業レガシープロジェクトを進めました。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
次代を担う 監督者研修 参加者数 [累計] (60人)	10人 (H27年 3月末)	15人 (H28年 3月末)	23人 (H29年 3月末)	32人 (H30年 3月末)	34人 (H31年 3月末) ※H31.3事 業終了	—	56.7% (△)
特定技能継 承企業等立 ち上げ数 [累計] (1件)	—	0件 (H28年 3月末)	1件 (H29年 3月末)	1件 (H30年 3月末)	1件 (H31年 3月末)	1件 (R2年 3月末)	100.0% (◎)
新規の技術 修行者数 [累計] (3人)	—	0人 (H28年 3月末)	0人 (H29年 3月末)	0人 (H30年 3月末)	0人 (H31年 3月末)	0人 (R2年 3月末)	0% (△)

イ. 創業支援・担い手育成

新たな創業に対して支援を行うつばめ創業支援事業や、経営力や競争力向上、農力アップ・コスト低減に向けてチャレンジする農業経営者を支援するチャレンジファーマー支援事業を実施しました。

【KPI (重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
補助金・利子 補給を受けて 創業した 者の数 (20人)	—	21人 (H27年度)	13人 (H28年度)	12人 (H29年度)	23人 (H30年度)	25人 (R元年度)	125.0% (◎)
新規創業者 数 (50人)	26人 (H26年度)	23人 (H27年度)	14人 (H28年度)	24人 (H29年度)	30人 (H30年度)	35人 (R元年度)	70.0% (△)
チャレンジ ファーマー 支援事業申 請数 (30件)	—	11件 (H27年度)	23件 (H28年度)	17件 (H29年度)	18件 (H30年度)	22件 (R元年度)	73.3% (△)

(3) 《プロジェクト② ひと》若者・女性が輝くつばめプロジェクトの達成状況の評価

地元定着や転入増の流れをつくり、結婚や子育てを応援する事業を実施しました。基本目標については、人口の全国的な「東京一極集中」や当市での急激な出生数の減少があり、「社会増減(純移動数)」、「出生数」とともに、今のところ成果に結びついていないことから、事業の継続はもちろん、若い世代の結婚・出産・子育てへの支援等、内容の充実が必要と考えます。

【基本目標に関する実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
社会増減 [純移動数] (±0人)	△88人 (H26年)	△180人 (H27年)	△169人 (H28年)	△246人 (H29年)	△259人 (H30年)	△85人 (R元年)	0% (▼)
出生数 (625人)	600人 (H26年)	601人 (H27年)	592人 (H28年)	544人 (H29年)	493人 (H30年)	483人 (R元年)	77.8% (▼)

①地元定着・転入増の流れをつくる

ア. U I J ターン就労支援

東京圏に在住する燕市の学生・若手社会人等との交流促進や仕事・暮らしの情報の発信、つばめ産学協創スクエア事業によるインターンシップの受入などを進めました。

【K P I (重要業績指標) と実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
移住相談者 にかかる本市 定住者数 [累計] (50人)	—	0人 (H28年 3月)	2人 (H29年 3月)	3人 (H30年 3月)	33人 (H31年 3月)	63人 (R2年 3月)	126.0% (◎)
県外との 社会増減数 (△54人)	△145人 (H26年)	△264人 (H27年)	△200人 (H28年)	△323人 (H29年)	△244人 (H30年)	△174人 (R元年)	0% (▼)

イ. 女性が輝くつばめプロジェクト

各分野で活躍している女性や女性の活躍を応援する事業所等の表彰、金融機関・女性起業家グループとの連携による創業講座、市内事業所による職場環境整備への補助事業を実施しました。

【KPI (重要業績指標) と実績値 (実績見込値) の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
ハッピーパートナー企業に登録された数 (60社)	30社 (H27年 3月末)	35社 (H28年 3月末)	36社 (H29年 3月末)	36社 (H30年 3月末)	41社 (H31年 3月末)	47社 (R2年 3月末)	78.3% (△)
女性創業者数[累計] (25人)	13人 (H27年 3月末)	11人 (H28年 3月末)	24人 (H29年 3月末)	31人 (H30年 3月末)	40人 (H31年 3月末)	50人 (R2年 3月末)	200.0% (◎)
職場環境整備補助企業における新規女性雇用者数[累計] (100人)	—	29人 (H28年 3月末)	58人 (H29年 3月末)	114人 (H30年 3月末)	155人 (H31年 3月末)	170人 (R2年 3月末)	170.0% (◎)

②結婚・子育て応援

ア. 男女の出会いサポート事業

婚活イベントの開催、縁結び団体の活動支援などを実施しました。

【KPI (重要業績指標) と実績値 (実績見込値) の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
出会い応援団の数 (60団体)	—	29団体 (H28年 3月末)	29団体 (H29年 3月末)	44団体 (H30年 3月末)	50団体 (H31年 3月末)	60団体 (R2年 3月末)	100.0% (◎)
出会いサポート事業を通じたカップル成立率 (30%以上)	—	46.2% (H27年度)	42.4% (H28年度)	51.4% (H29年度)	50.0% (H30年度)	50.0% (R元年度)	100.0% (◎)

イ. 妊娠から育児までの切れ目ない支援

妊娠・出産・子育てに関する総合窓口の開設、不妊治療に係る費用の一部助成などの母子保健支援サポート事業を進めました。

【KPI (重要業績指標) と実績値 (実績見込値) の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
特定不妊治療助成事業 利用者の出生数[累計] (98件)	38件 (H26年度末)	43件 (H27年度末)	60件 (H28年度末)	71件 (H29年度末)	81件 (H30年度末)	92件 (R元年度末)	93.9% (○)
育児相談利用者の割合 [2か月児育児相談会] (70%以上)	57.4% (H26年度)	56.0% (H27年度)	63.9% (H28年度)	66.7% (H29年度)	69.5% (H30年度)	70.0% (R元年度)	100.0% (◎)

ウ. 子育て世帯生活支援

子育て世代などを対象とする住宅取得にかかる費用の一部補助や、保育園に子育て活動スペースを増築して子育てセンター機能の整備を進めました。

【KPI (重要業績指標) と実績値 (実績見込値) の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
子育て世代住宅取得支援制度を利用して市外から移住した人数 [累計] (580人)	66人 (H26年度末)	186人 (H27年度末)	338人 (H28年度末)	491人 (H29年度末)	596人 (H30年度末)	716人 (R元年度末)	123.4% (◎)

(4) 《プロジェクト③ まち》ホストシティつばめプロジェクトの達成状況の評価

産業観光、インバウンド観光の強化により、本市の魅力に惹かれ、訪れたい・応援したいと思う人を増やすことを目指し、魅力づくりと発信、広域観光連携の促進、受入体制の整備に関する事業を進めました。

基本目標の「観光客入込数」は、指標地点の整理等の要因もあるものの達成できたことから、更なる入込数の増加に向けた取り組みが必要と考えます。

【基本目標に関する実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
観光客入込数 (770,000人)	速報値 699,100人 (H26年)	672,901人 (H27年)	573,180人 (H28年)	681,326人 (H29年)	830,964人 (H30年)	943,500人 (R元年)	122.5% (◎)

①魅力づくりと発信

ア. 産業観光の推進

産業観光ナビゲーターの育成や、産業観光受入体制整備事業で製品製作工程の映像制作、見学者用駐車場整備、見学通路整備等に関する補助などを実施しました。

【KPI(重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
産業観光ナビゲーターやボランティアガイドが受け入れた企業・団体数 (50団体)	—	21団体 (H27年度)	30団体 (H28年度)	46団体 (H29年度)	87団体 (H30年度)	87団体 (R元年度)	174.0% (◎)
オープンファクトリー受入人数 [累計] (250人)	—	—	6,874人 (H29年 3月末)	16,009人 (H30年 3月末)	18,521人 (H31年 3月末)	20,000人 (R2年 3月末)	8,000% (◎)

イ. インバウンド観光の推進

観光施設の案内看板等の多言語化や、台湾などをターゲットに各種プロモーション活動を実施しました。

【KPI (重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
外国人観光客 入込数[産業 史料館] (100人)	30人 (H26年度)	60人 (H27年度)	120人 (H28年度)	236人 (H29年度)	47人 (4~6月) (H30年度)	350人 (R元年度)	350.0% (◎)
外国人観光客 入込数[燕三 条地場産業振 興センター] (1,200人)	300人 (H26年度)	1,170人 (H27年度)	1,159人 (H28年度)	2,312人 (H29年度)	3,355人 (H30年度)	3,500人 (R元年度)	297.1% (◎)

②広域観光連携の促進

ア. 広域観光連携の推進

燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョンによる弥彦村との連携強化や、燕三条工場の祭典を開催しました。

【KPI (重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
燕三条工場 の祭典参加 企業数 (100社)	59社 (H26年度)	68社 (H27年度)	96社 (H28年度)	103社 (H29年度)	109社 (H30年度)	112社 (R元年度)	112.0% (◎)

③受入体制の整備

ア. 受入体制の整備

道の駅国上の売店・食堂棟の増改築、産業史料館のリノベーションを実施しました。

【KPI (重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
道の駅・国上 売上額の伸び (H26年度比 20%増) [37,242千円]	— [31,035千円] (H26年度)	H26年度比 15.8%増 [35,931千円] (H27年度)	H26年度比 15.5%増 [35,848千円] (H28年度)	H26年度比 54.2%増 [47,865千円] (H29年度)	H26年度比 112.4%増 [65,915千円] (H30年度)	H26年度比 112.7%増 [66,000千円] (R元年度)	563.5% (◎)
道の駅・国上 来館者数 (115,000人)	103,918人 (H26年度)	107,020人 (H27年度)	106,521人 (H28年度)	166,534人 (H29年度)	182,828人 (H30年度)	183,000人 (R元年度)	159.1% (◎)

(5) 《フラッグシップ プロジェクト》つばめ東京オリンピック・パラリンピックプロジェクトの達成状況の評価

東京 2020 オリンピック・パラリンピックを本市の魅力の世界に発信する絶好の機会とするため、オリンピック・パラリンピックへの参画を目指し、「しごと・ひと・まち」の各プロジェクトを横断する事業に取り組みました。

①東京オリ・パラを契機とした産業再生

東京 2020 オリンピック・パラリンピックの選手村等での燕製金属洋食器の採用を目指した各種取り組みの展開や、日本金属洋食器工業組合との連携によるカトラリー検定の普及に関する取り組みを進めました。

【K P I (重要業績指標) と実績値 (実績見込値) の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
新たに改良・ 開発する製 品数[累計] (5点)	—	0点 (H28年 3月末)	0点 (H29年 3月末)	0点 (H30年 3月末)	3点 (H31年 3月末)	3点 (R2年 3月末)	60.0% (△)
マルサポートハウス 等で燕製品 を採用する 国[累計] (3か国)	—	0か国 (H28年 3月末)	0か国 (H29年 3月末)	0か国 (H30年 3月末)	0か国 (H31年 3月末)	0か国 (R2年 3月末)	0% (△)
カトラリー ソムリエ認 定者数[累 計] (100人)	52人 (H27年 3月末)	55人 (H28年 3月末)	57人 (H29年 3月末)	59人 (H30年 3月末)	67人 (H31年 3月末)	75人 (R2年 3月末)	75.0% (△)
カトラリー 検定の東京 会場での年 間受験者数 (50人)	20人 (H26年度)	9人 (H27年度)	13人 (H28年度)	7人 (H29年度)	12人 (H30年度)	10人 (R元年度)	20.0% (▼)

②英語教育の推進(ジャック&ベティプロジェクト)

小中学生向け英会話教室、保育園・幼稚園・こども園へのJTEの配置、英語スピーチコンテスト、海外親善大使派遣などによるジャック&ベティプロジェクトを実施しました。

【KPI (重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
英検 3 級取得の中学生の割合 (50%以上)	10.2% (H26年度)	25.3% (H27年度)	22.9% (H28年度)	29.0% (H29年度)	20.3% (H30年度)	41.4% (R元年度)	82.8% (△)

③東京オリ・パラ事前キャンプの誘致

オリンピック・パラリンピック事前キャンプの誘致に向けたモンゴル国パラアーチェリー選手団の合宿受入や、一流アスリートを招聘して小中学生向けのスポーツ講習会などを実施しました。

【KPI (重要業績指標)と実績値(実績見込値)の推移】

数値目標 (目標値)	基準値	【H27年度】 2016.3 時点実績	【H28年度】 2017.3 時点実績	【H29年度】 2018.3 時点実績	【H30年度】 2019.3 時点実績	【R元年度】 2020.3 実績見込	達成率 (評価)
東京オリ・パラのキャンプ誘致 (1か国)	0か国 (H27年度末)	—	1か国 (H28年度末) ※覚書締結による	1か国 (H29年度末)	1か国 (H30年度末)	1か国 (R元年度末)	100.0% (◎)

(6) 第1期総合戦略の総括（第2期総合戦略の基本的方向性）

産業観光やインバウンド観光の推進、道の駅・国上の整備など、本市を知り、訪れ、ファンになってもらうための「交流人口増加対策」は、産業観光入込数の増加や東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致など、着実な成果が見込まれていることから、流れを継続させる展開が必要です。

産業・経済の発展と安定した雇用創出に関する取り組みの「産業経済発展対策」は、商品開発や販路開拓への支援、新産業育成や創業支援の推進等により、一定の成果が見込まれます。また、東京オリ・パラ選手村等での燕製金属洋食器の採用を目指した取り組みも順調に進んでいます。しかしながら、地域経済は予断を許さない見通しもあることから、引き続きそれらに取り組んでいくことが重要です。

U I J ターンの推進や結婚・子育て応援に関する事業を進めてきた「人口の自然減対策」「人口の社会減対策」は、個々の事業がある程度の成果を示しているものの、全国的な「東京一極集中」や「少子高齢化・人口減少」の動向もあり、目標としている「出生数」「社会増減(純移動数)」の達成は難しいことから、若い世代の結婚・出産・子育てへの支援など、施策の一層の充実が必要です。

そこで、人口の「自然減対策」「社会減対策」を更に強化し、急激な人口減少に一定の歯止めをかけるとともに、「産業経済発展対策」「交流人口増加対策」を通し、人口減少により起こりうる地域経済の衰退などの問題に対応する、地方創生の取り組みを地域の活力向上のために継続します。

また一方で、将来における人口減少は必至であることから、今後は、地域社会のあり方を人口の減少を前提にしながら見直していく必要があります。

5. 第2期総合戦略

○総合戦略の体系図

第2期総合戦略においては、第1期の着実な成果が生まれている事業の流れを踏まえ、「継続を力にする」という姿勢から基本的枠組みを維持しつつ、急激な人口減少に一定の歯止めをかけ、地域経済・社会の活力と持続可能性向上のため、新たな視点を加えて「しごと」「ひと」「まち」の3区分でプロジェクトを展開していきます。

なお、第1期総合戦略において進めた「つばめ東京オリンピック・パラリンピックプロジェクト」は、東京オリンピック・パラリンピックが令和2年度(2020年度)に開催されることに伴い終了することとし、引き続き取り組む必要がある項目を、各3プロジェクトに組み入れることとします。

また、総合戦略の推進にあたっては、経済、社会、環境面等の相乗的向上を目指し、将来世代の豊かさの確保などの持続可能な地域社会の実現に向けたSDGsの理念に基づきながら各プロジェクトを総合的に進めます。

【プロジェクト① しごと】つばめ産業ブランド発信プロジェクト

(1) 生産性向上・技術の高度化

- ① I o T等活用による労働生産性の向上
- ②ものづくり基盤の強化

(2) 労働環境の改善

- ①中小企業の魅力発信・人材獲得
- ②ダイバーシティ経営と人材育成

(3) 創業・事業承継の促進

- ①創業支援
- ②事業承継・担い手育成

(4) 既存技術転用・ビジネスモデルの転換

- ①新産業育成支援

(5) 企業立地環境の整備

- ①産業基盤の強化
- ②企業立地の推進

(6) 新たな販路開拓

- ①地域産業ブランド化の推進
- ②広域連携による産業情報発信

【プロジェクト② ひと】若者・女性をはじめ全世代が輝くつばめプロジェクト

(1) UIJターン・就労支援

(2) 官民一体となった結婚・子育て応援

- ①男女の出会いサポート
- ②妊娠から子育てまでの切れ目のない支援
- ③子育て世帯の生活支援

(3) 活躍するひとづくり

- ①特色ある学校教育の推進
- ②高齢者、障がい者等の活躍支援
- ③若者・女性の活躍促進

【プロジェクト③ まち】訪れたい・住みたいまちつばめプロジェクト

(1) 魅力づくりと発信

- ①産業観光の推進
- ②インバウンド観光の推進
- ③関係人口の創出・活用

(2) 広域連携観光の促進

- ①広域連携観光の推進
- ②燕・弥彦定住自立圏構想等を通じた連携強化

(3) 持続可能性を意識したまちづくり

(4) 地域力を活かした安全で安心なまち

【プロジェクト① しごと】 つばめ産業ブランド発信プロジェクト

これまで培ってきた「ものづくりのまち・燕」の熟練職人の技術や経営者間ネットワークは継承しつつ、IoT・AI等に対応したものづくり企業の創出や、多様な人材の確保とその能力が最大限発揮できる労働環境整備を促進するため、「生産性向上・技術の高度化」、「労働環境の改善」、「創業・事業承継の促進」、「既存技術転用・ビジネスモデルの転換」、「企業立地環境の整備」、「新たな販路開拓」の6分野を柱に「つばめ産業ブランド発信プロジェクト」に取り組みます。

◇成果指標◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
製造品出荷額等	4,303億1千万円 (平成29年)	4,375億円
従業員一人当たり製造業付加価値額	844万円 (平成29年)	964万円
市町村内総生産	3,524億円 (平成28年度)	3,710億円

(1) 生産性向上・技術の高度化

地域企業が、生産性向上による利益率の改善や技術の高度化、品質の向上を進め、既存ビジネス分野での競争力を向上させ、更に新技術・新商品開発などによる新分野の開拓を促進し、「稼げる企業体質」を確立するための取り組みを支援します。

① IoT等活用による労働生産性の向上

中小企業の労働生産性向上に向けたロボット・IoT・AI等の導入を促進するため、「燕市IoT推進ラボ」を拠点に、産学官金によるネットワークづくりや先進的なプロジェクトに取り組み、地域産業の生産性革命(Society5.0の実装)を推進します。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
IoT推進ラボの会員数 (累計)	21社 (令和元年度)	40社
燕市共用クラウド利用企業数 (累計)	5社	20社

②ものづくり基盤の強化

今後も「ものづくり産地」として成長を持続するために環境への配慮や品質管理への取り組み、未来技術を活用した生産性の向上、SDGs 経営の実現に向けた支援を進めます。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
T S O認証事業者数 (累計)	66 社 (平成 30 年度)	85 社
T S O認証事業者のうち、 国際規格 I S Oへの移行事 業者数(累計)	6 社 (平成 30 年度)	9 社

(2) 労働環境の改善

地域企業の働き方改革に向けた、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)や若者や女性、外国人材等の活躍促進を含めた雇用環境改善を図る取り組みを支援します。

①中小企業の魅力発信・人材獲得

働き方改革を推進し、労働生産性向上のカギとなる働く場としての魅力を高めることで、若者、女性、高齢者、外国人、障がい者など、多様な人材の確保・定着を目指します。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
高卒求人充足のための企業 見学会、説明会参加者の市 内企業への就職人数(累計)	—	150 人
マザーズおしごとセミナー 参加者の市内企業への就職 人数(累計)	—	5 人
つばめ産学協創スクエア事 業によるインターン生の受 入事業者数(累計)	53 事業者 (平成 30 年度)	70 事業者

②ダイバーシティ経営と人材育成

多様な人材が互いに価値観を深め、それぞれ個性を活かして協働していくことで最大限に力を発揮するダイバーシティ経営(※)を積極的に推進します。

※多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげていく経営

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
外国人材、女性の市内企業への就職者数(職場環境整備支援事業)(累計)	—	30人

(3) 創業・事業承継の促進

経営者の高齢化、人手不足、人口減少など、著しい社会・経済構造の変化に対応するため、創業や事業承継による地域経済の新陳代謝を図る取り組みを支援します。

①創業支援

若者や女性の地元定着を図るための創業支援策に引き続き取り組むほか、事業者の人材確保に向けた支援を行います。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
創業件数 (年間)	62件 (平成30年度)	85件
チャレンジファーマー支援 事業申請数(累計)	22件 (令和元年度)	30件

②事業承継・担い手育成

地域企業が有する技術・ノウハウ等の経営資源や雇用を喪失させないため、次世代への円滑な事業承継を支援します。

◇重要業績評価指標（K P I）◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
新規技術承継者数(製造技能者育成支援事業)(累計)	—	6人
事業承継数(新潟県事業承継融資制度)(累計)	—	3件

(4) 既存技術転用・ビジネスモデルの転換

地域産業を支えている技術や商品の強みを活かし、今後成長の見込める他分野への応用やモノづくりのサービス化等を進め、稼げる企業体質を確立するための取り組みを支援します。

①新産業育成支援

高度な技術を持つ金属加工業等による新たな事業分野の開拓や参入に向けた共創型の取り組みに対し、産学官金が連携して支援することで、新たなモノづくりや価値を創出するきっかけづくりを行います。

◇重要業績評価指標（K P I）◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
若 mono デザインコンペティション燕による製品化数(累計)	2点 (令和元年度)	5点
全国の若手経営者等との地域間交流(年間)	1件 (令和元年度)	2件

(5) 企業立地環境の整備

企業立地の受け皿となる新たな産業用地を確保するための施策を取りまとめ、本市のポテンシャルを最大限に活かした企業誘致を積極的に推進し、地域経済の活性化を図ります。

①産業基盤の強化

地域産業の成長に対応した産業用地の確保・整備の方策を検討し、企業立地ニーズに対応した産業用地の整備を推進します。

◇重要業績評価指標（K P I）◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
産業用地の開発面積 (年間)	37,000 m ² (平成30年)	40,000 m ²

②企業立地の推進

市内に工場等を立地する事業者を支援し、産業空洞化の防止並びに雇用者数の増加を図ります。

◇重要業績評価指標（K P I）◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
新規工場立地件数 (年間)	9件 (平成30年)	10件

(6) 新たな販路開拓

ものづくりのまち・燕のブランド力をより一層高めるとともに、全国や世界へ向けて技術力を発信する取り組み等を進め、事業者の販路開拓を支援します。

①地域産業ブランド化の推進

これまで培ってきた高度な技術力を基盤に、デザイン思考を取り入れた新たな商品開発やビジネスモデル構築を支援することで、地域産業の更なるブランド化を図り、国内外への新たな需要の拡大に取り組みます。

◇重要業績評価指標（K P I）◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
海外販路開拓展開企業輸出入額(年間)	171億1千万円 (平成29年)	230億円
燕三条トレードショウの成約/引き合い件数(年間)	263件 (令和元年度)	400件
燕市見本市出展小間料補助金利用者の成約件数(年間)	2,475件 (平成30年度)	2,600件
デザインコンクール出品企業数(年間)	33社 (平成30年度)	40社

②広域連携による産業情報発信

燕三条地場産業振興センターを中心とした関係機関や他地域との連携により、本市のものづくりを国内外にPRし、販路の拡大を図ります。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
全国の若手経営者等との地域間交流(年間)【再掲】	1件 (令和元年度)	2件
海外見本市新規出展企業数 (海外見本市出展サポート事業、燕三条地場産業振興センター事業)(年間)	7社 (平成30年度)	10社
燕三条ものづくりメッセの成約/引き合い件数(年間)	2,863件 (平成30年度)	3,000件

【プロジェクト② ひと】

若者・女性をはじめ全世代が輝くつばめプロジェクト

若者・女性をはじめあらゆる世代、あらゆる立場のひとが各々の暮らしにおいていきいきと活躍できるよう支援するため、「UIJターン・就労支援」、「官民一体となった結婚・子育て応援」、「活躍するひとづくり」の3分野を柱とする「若者・女性をはじめ全世代が輝くつばめプロジェクト」に取り組みます。

◇成果指標◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
社会増減 (純移動数)	△259人 (平成30年)	±0人
出生数	493人 (平成30年)	600人

(1) UIJターン・就労支援

地域産業の活性化や地域コミュニティ機能の向上を目指し、若年層や中堅層のUIJターン希望者等の移住希望者を対象に、本市の魅力を総合的に発信しながら定住支援策を展開します。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
移住相談者および移住者支援に関する補助金利用者にかかる本市定住者数(累計)	33人 (平成30年度)	150人
県外との社会増減	△244人 (平成30年)	△50人

(2) 官民一体となった結婚・子育て応援

各世代からの多様な希望に柔軟に対応できるように、男女の出会いの場や切れ目のない相談体制、結婚や子育てに関する情報発信・提供機能等を充実させるとともに、ニーズに応じた保育・子育て環境を提供するなど、結婚から妊娠・出産・子育てまでをトータルで支援する枠組みについて、官民一体となって充実を図ります。

①男女の出会いサポート

晩婚化、未婚化の解消や、生涯未婚率を抑制するための一助として、縁結びサークルを支援し、関係団体と連携しながら、男女の出会いを総合的にサポートします。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
本市主催の婚活イベントによる成婚数(累計)	6組 (平成30年度)	10組
出会いサポート事業を通じたカップル成立数(累計)	76組 (平成30年度)	144組

②妊娠から子育てまでの切れ目のない支援

核家族化の進展が進み近くに子育ての助けとなる人がいない場合も多いことから、総合相談窓口の運営、子育て情報の発信、病児・病後児保育や未満児保育等、ニーズに応じた保育・子育て環境の提供など、妊娠・出産から子育てまでを一貫してサポートする体制を推進します。

また、妊娠・出産を望む夫婦に対する不妊治療や不育症治療に係る費用の一部補助、妊産婦に対する医療費の助成など、妊娠・出産・育児に係る経済的負担の軽減を図ります。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
育児相談利用者の割合 (2か月児育児相談)(年間)	69.5% (平成30年度)	70%
不妊治療助成事業利用者の 出生数(累計)	104人 (平成30年度末)	200人

③子育て世帯の生活支援

市内に住宅を取得する子育て世代等を対象に、住宅取得にかかる費用の一部補助などの経済的な負担軽減を図るほか、放課後の居場所づくりや保育サービスの充実など、両親の就労形態の多様化に対応する支援の充実に取り組みます。

また、市内事業所に向けて仕事と子育ての両立に係る職場環境づくりを働きかけるなど、企業やNPO等の民間を巻き込んだ子育て世帯支援の取り組みを進め、子育て環境の充実・強化を図ります。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
子育て世代住宅取得支援制度を利用して市外から移住した人数(累計)	105人 (平成30年度)	300人

(3) 活躍するひとづくり

年齢や障がいの有無等を問わず、あらゆる世代、あらゆる立場のひとが各々の暮らしの中において、いきいきと活躍できる環境・体制の整備を進めます。

①特色ある学校教育の推進

子どもたちに生きた英語を体験させることにより国際理解を深めるとともに、プログラミング的思考を育成するためのプログラミング教室の開催、ふるさと教育やキャリア教育の推進などにより、本市の将来を担う人材を育成します。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
英検3級程度以上の中学生の割合(年間)	41.4% (令和元年度)	43.0%
プログラミング教室参加者数(実人数)	29人 (令和元年度)	36人

②高齢者、障がい者等の活躍支援

地域の支え合いや健康・体力づくり、生涯学習・文化活動、就労支援等に関する取り組みを推進し、高齢者や障がい者など、あらゆる世代、あらゆる立場のひとがいつまでも各々の暮らしの中において、生きがいや活躍の場を持ち、輝いて生きることを支援します。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
健康づくりマイストーリー 運動の参加者数(年間)	12,560人 (平成30年度)	13,000人
介護予防体操を行う自主グ ループ登録者数(累計)	553人 (令和元年9月末)	700人

③若者・女性の活躍促進

若者の主体的なまちづくり活動を引き続き支援することで、活動の更なる活性化を図るとともに、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場環境の整備や意識啓発を通じ、女性が働きやすく、男女が共に仕事や子育てを分担できる社会環境づくりをより一層推進します。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
ハッピーパートナー企業に 登録された数(累計)	41社 (平成30年度)	66社
女性就業率(年間)	54.4% (平成27年)	57.5% (令和2年)

【プロジェクト③ まち】 訪れたい・住み続けたいまちつばめプロジェクト

本市の魅力に惹かれ、訪れたい・応援したいと思う人を増やすとともに、住んでいる人がいつまでも住み続けたいと思えるように、「魅力づくりと発信」、「広域連携観光の促進」、「持続可能性を意識したまちづくり」、「地域力を活かした安全で安心なまち」の4分野を柱とする「訪れたい・住み続けたいまち つばめプロジェクト」に取り組みます。

◇成果指標◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
観光客入込数 (暦年)	830,964人 (平成30年)	1,000,000人 (令和4年)
産業史料館入館者数 (暦年)	20,000人 (令和元年の目標値)	25,000人 (令和4年)

(1) 魅力づくりと発信

多様な関係機関と協働しながら、産業史料館や道の駅・国上をはじめ、本市にゆかりのある良寛などの歴史・文化遺産、本市の産業特性であるものづくりの現場工程を見学できるオープンファクトリーなど、魅力的な観光資源や受入体制の強化を図ることで本市に来訪してもらう機会を増やします。

また、国内外に向けた本市産業の魅力の効果的な情報発信を継続し、本市の特産品を直接知ってもらい、購入してもらう取り組みを推進します。

①産業観光の推進

金属加工をはじめとするものづくりの技を観光資源として活かし、引き続き情報発信と受入体制の整備を進めるとともに、多様な関係機関と協働することで一層魅力的な着地型観光を推進します。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
観光ナビゲーターやボランティアガイドが受け入れた企業・団体数(年間)	87団体 (平成30年度)	127団体
オープンファクトリー受入人数(産業観光受入体制整備補助事業利用企業)(累計)	18,521人 (平成30年度)	23,000人

②インバウンド観光の推進

関係機関が連携したプロモーション活動を進め、誘客による海外からの需要の拡大と市内への循環を図ります。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
外国人観光客入込数(産業史料館)(年間)	236人 (平成29年度)	500人
外国人観光客入込数(燕三条地場産業振興センター)(年間)	3,355人 (平成30年度)	4,000人

③関係人口の創出・活用

観光での来訪やふるさと納税などでの関わりをきっかけに、本市と継続的なつながりを持ってもらう「関係人口」の創出に関する取り組みを進め、市外から応援してくれる人を増やすとともに、応援者と市民との交流を促進します。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
つばめサポートクラブ会員数(累計)	-	400人

(2) 広域連携観光の促進

連携して定住自立圏構想を推進する弥彦村と、お互いの強みを活かし、弱みを補完し合いながら地域の活性化を図ります。

また、三条市や燕三条地場産業振興センターなどとの広域連携による観光事業を推進します。

①広域連携観光の推進

燕三条地場産業振興センターと連携した観光PRや、三条市と連携した燕三条工場の祭典の開催、長岡市をはじめとする各市町村と連携した中越地域文化・観光振興事業などの広域連携による観光事業を実施します。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
燕三条工場の祭典参加 企業数(年間)	109社 (平成30年度)	117社
広域連携エリア観光客入込 数(燕市・弥彦村)(暦年)	3,332,034人 (平成30年)	3,626,000人 (令和4年)

②燕・弥彦定住自立圏構想等を通じた連携強化

生活圏や経済圏をともにする弥彦村と、観光機能の強化や圏域全体の暮らしに必要な都市機能の整備・充実を図ります。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
燕・弥彦定住自立圏連携事 業数(累計)	9事業 (令和元年度)	11事業

(3) 持続可能性を意識したまちづくり

居心地がいいまちなかづくりに繋げるため、空き店舗も含めた、空き家等の適正管理を推進するとともに、まちなかの空き家等の取得費や改修費の一部を支援することで利活用を促進し、解体撤去を要する空き家等の減少を図ります。

また、利便性・効率性の向上に向けた公共交通網の再編や、それに伴う環境整備、食品ロス削減をはじめとするごみの適正処理・再資源化を進めるなど、環境に配慮した持続可能なまちづくりを推進します。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
特定空き家等の件数	68件 (平成30年度)	60件
ゴミの総排出量	32,288t (平成30年度)	31,500t

(4) 地域力を活かした安全で安心なまち

地域力を一層高めるため、地域のコミュニティや各種団体が自ら課題を解決し、活動を活性化するための支援を継続します。

また、国土強靱化の視点から、災害等の非常時においても機能不全に陥らない地域社会の体制構築や地域自らが非常事態を未然に防ぐための取り組みを支援するなど、地域力を活かしながら、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

◇重要業績評価指標(KPI)◇

数値目標	基準値 (年度)	目標値 (令和4年度)
自主防災組織の組織率	72.2% (令和元年度)	85.0%

6. P D C Aサイクルによる効果検証の実施

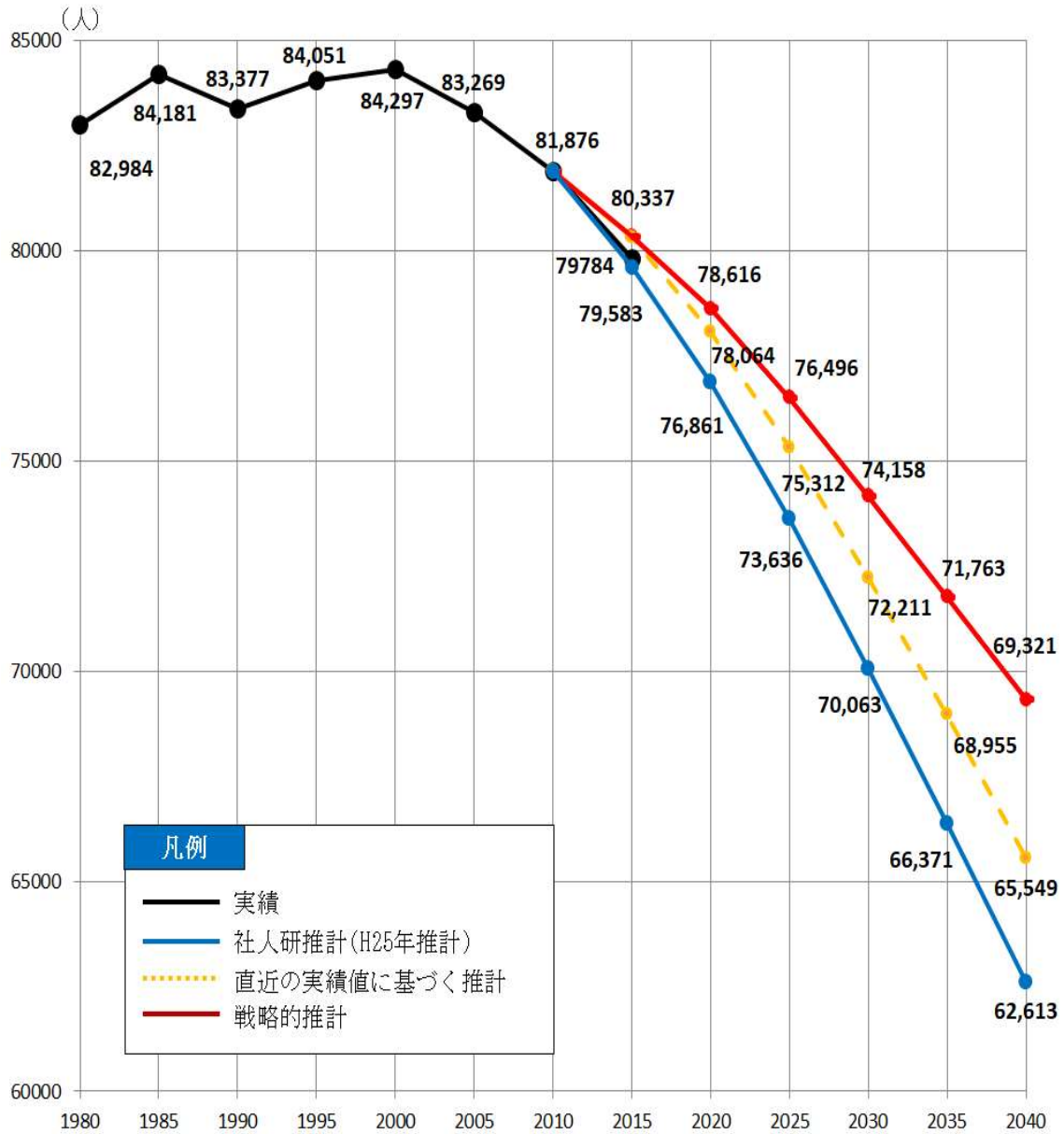
本総合戦略は、施策・事業の効果をP D C Aサイクルにより検証し、必要に応じて見直しを行うものとします。

検証や見直しに際しては、市民のほか産業界、新潟県、大学、金融機関、労働団体等が委員として参画する総合計画審議会において、成果指標や重要業績評価指標(K P I)に基づく評価を行うことで、総合戦略に記載された事業が適切に実行されるよう進行管理を行います。

資料編

1 燕市人口ビジョン策定後の人口等の推移

図表 1 人口の将来展望と実績値

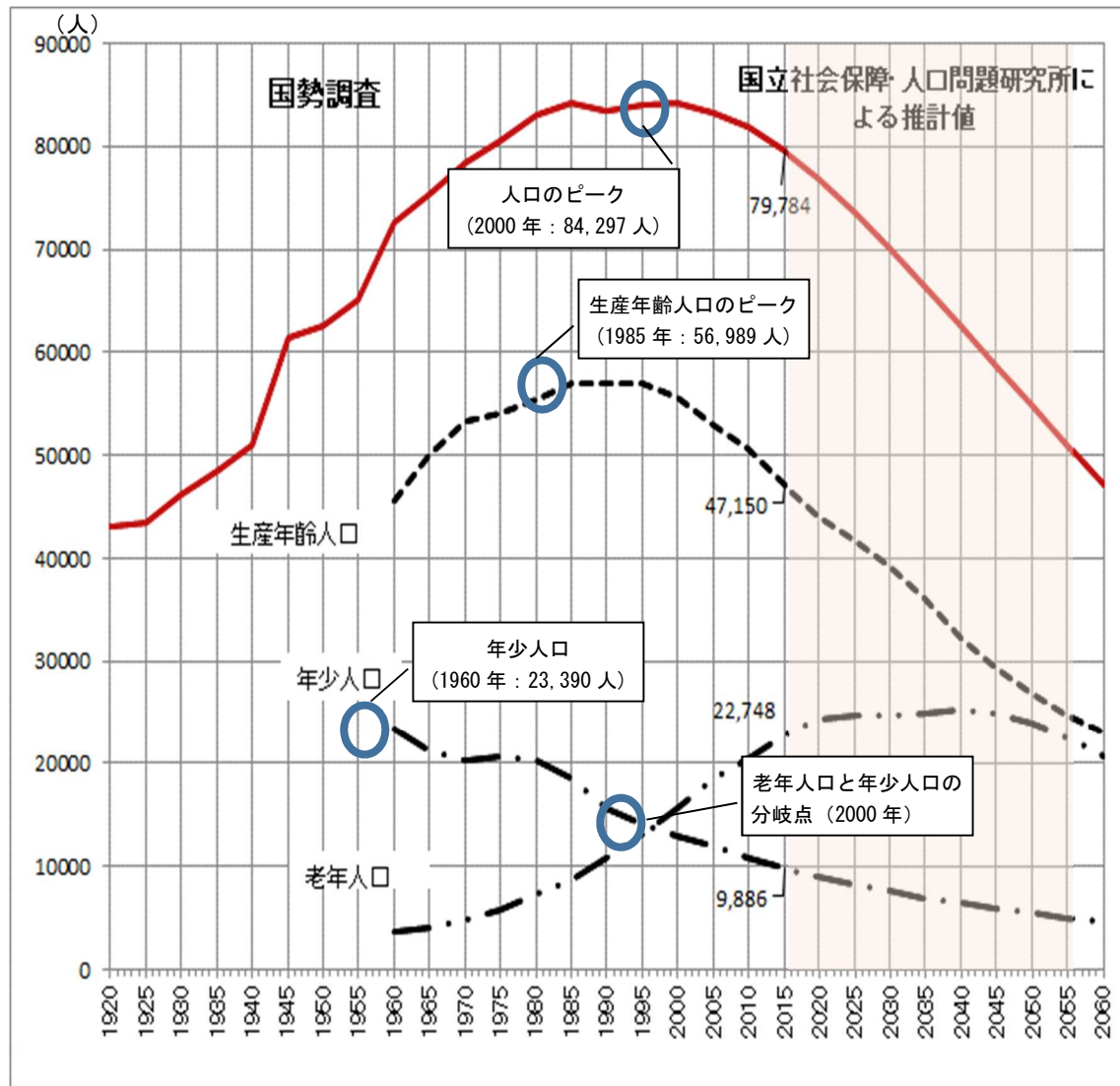


(出所) 実績：総務省「国勢調査」

社人研推計：国立社会保障・人口問題研究所による推計

人口ビジョン策定時の実績値に基づく推計・戦略的推計：本市による独自推計

図表2 総人口の推移

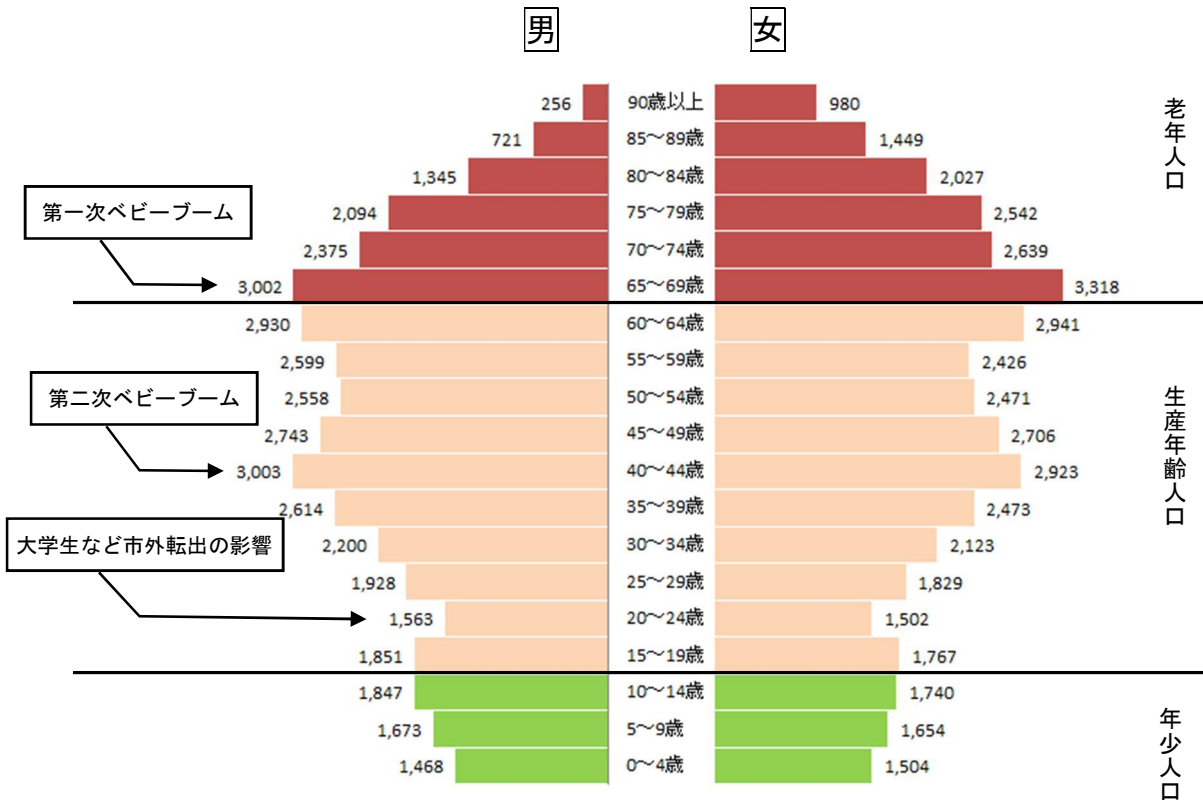


※2005年以前の数値は、旧燕市、旧吉田町、旧分水町の合計

(出所) 実績：総務省「国勢調査」

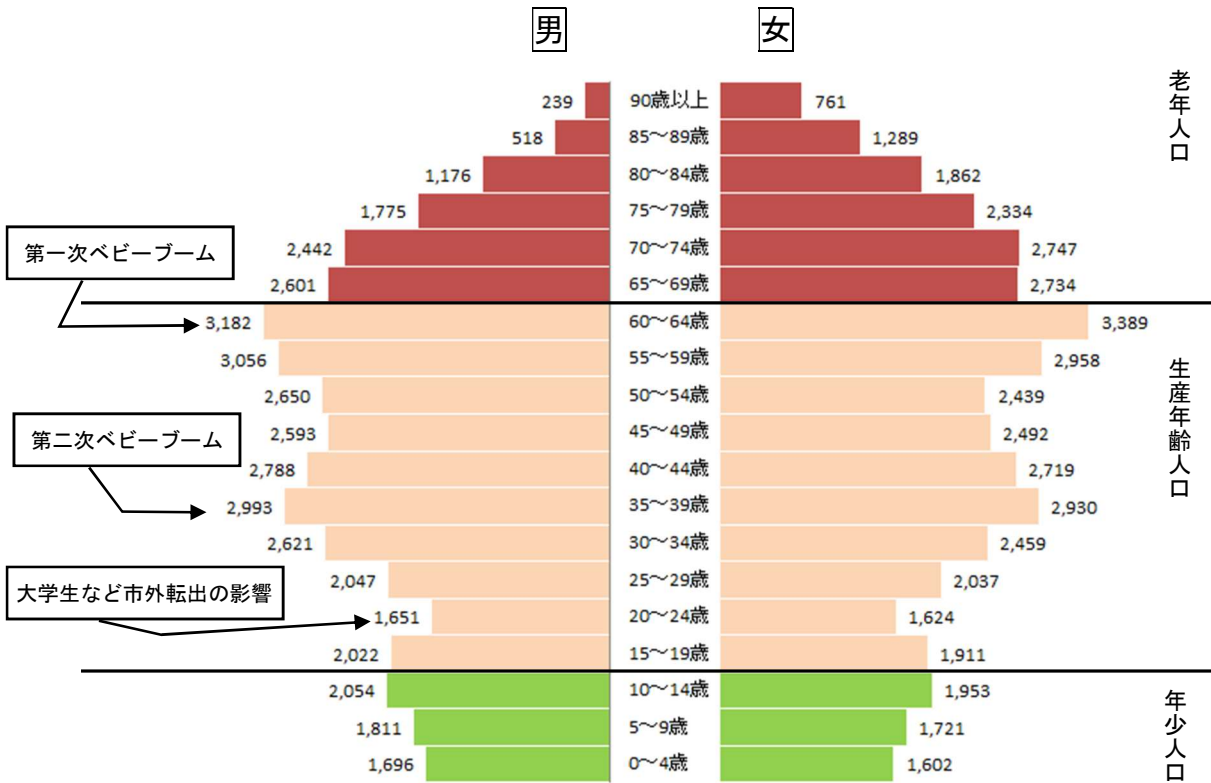
将来推計：国立社会保障・人口問題研究所

図表3 2015年人口ピラミッド(単位:人)



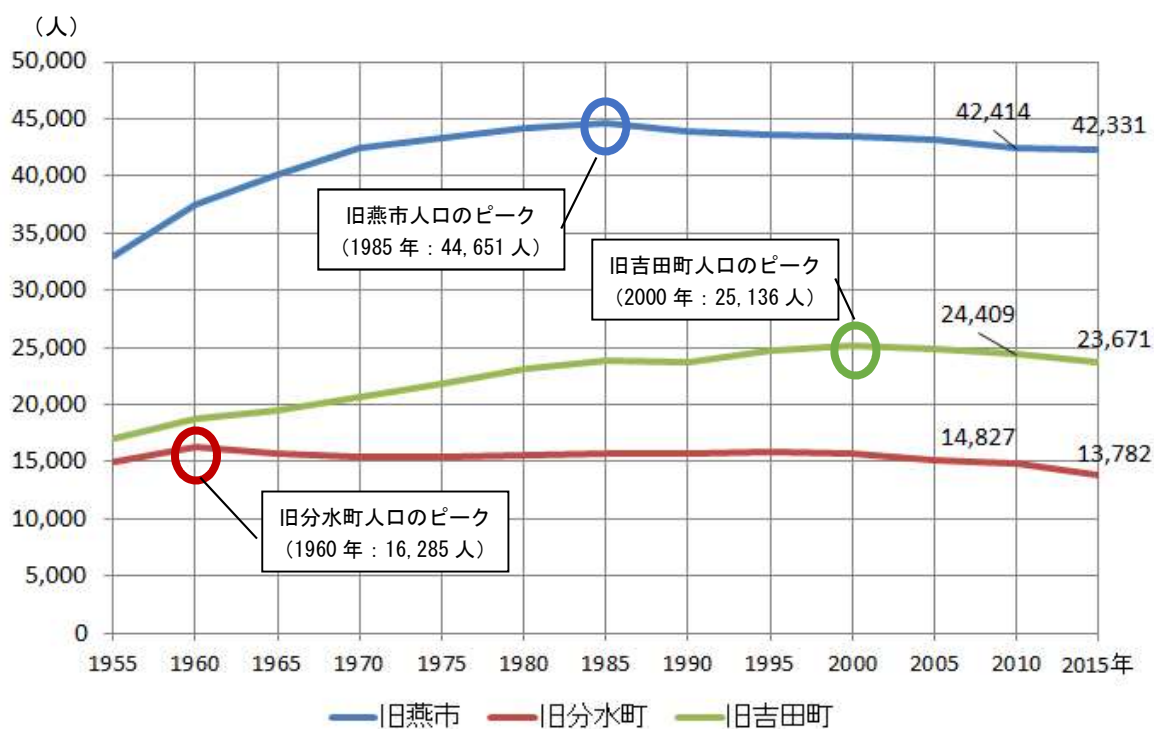
(出所) 総務省「国勢調査」

【参考】2010年人口ピラミッド(単位:人)



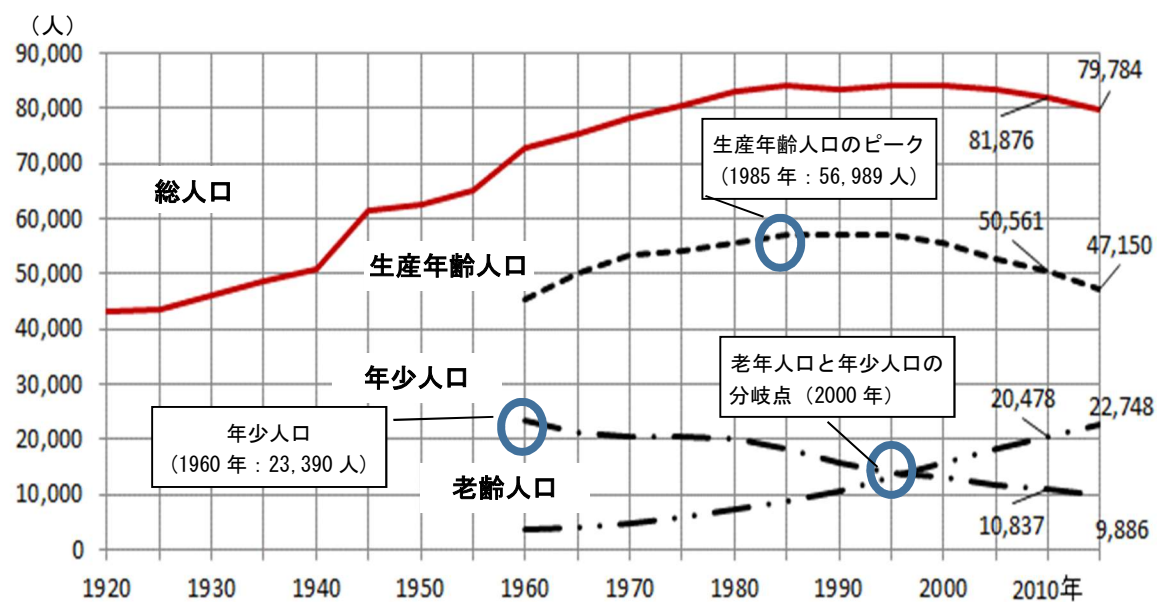
(出所) 総務省「国勢調査」

図表4 3地区別の人口推移



(出所) 総務省「国勢調査」

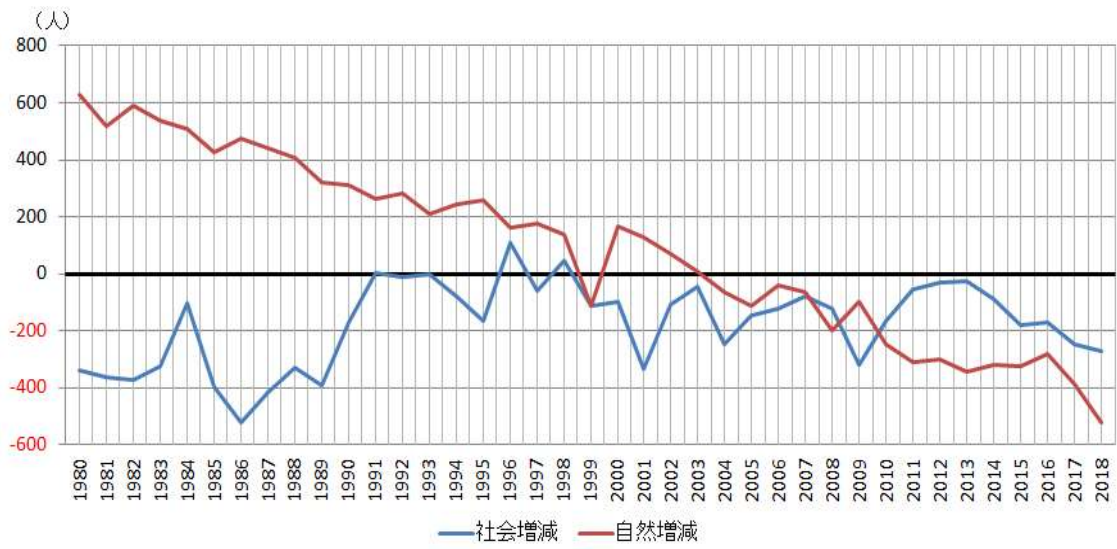
図表5 年齢3区分別の人口推移



(出所) 総務省「国勢調査」

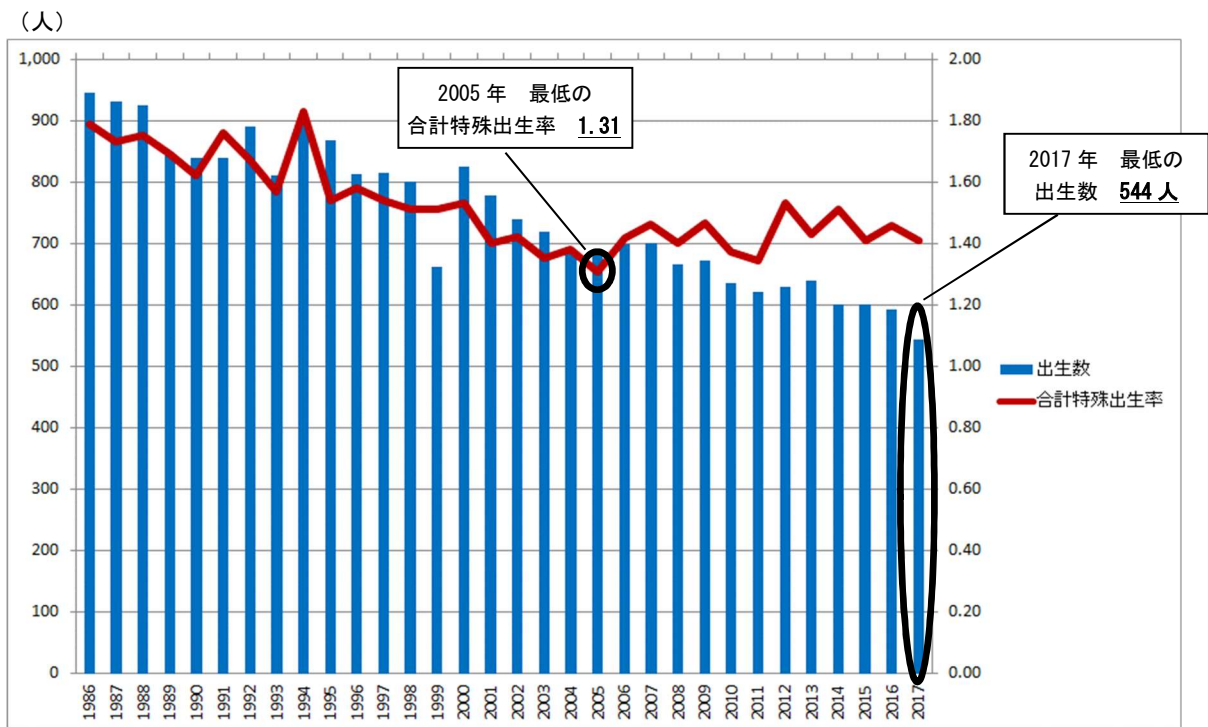
※2005年以前の数値は、旧燕市、旧吉田町、旧分水町の合計

図表6 自然増減と社会増減の推移



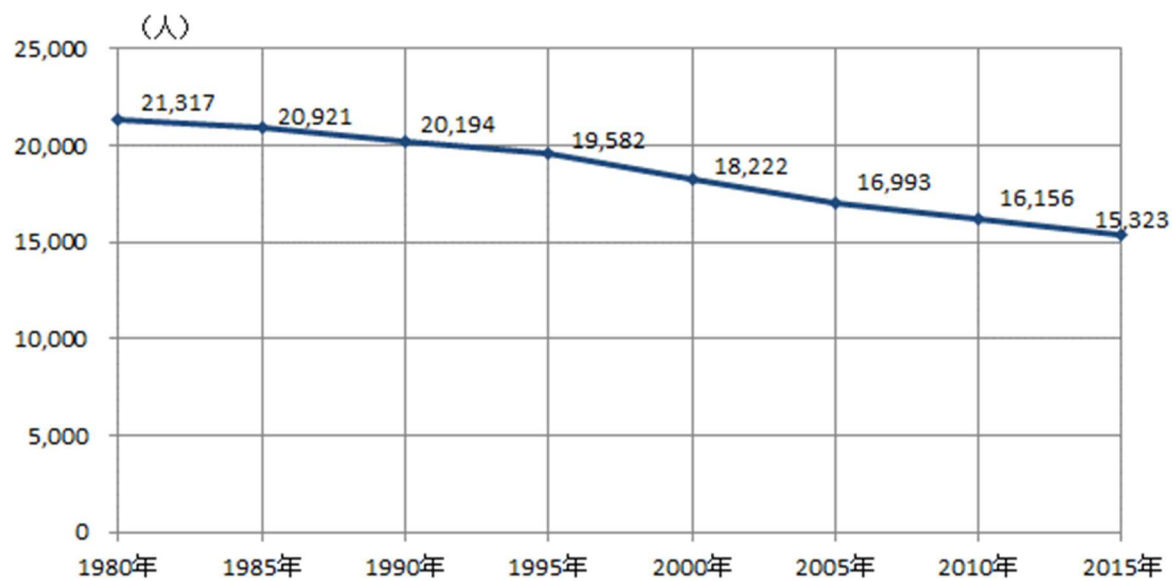
(出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図表7 出生数と合計特殊出生率



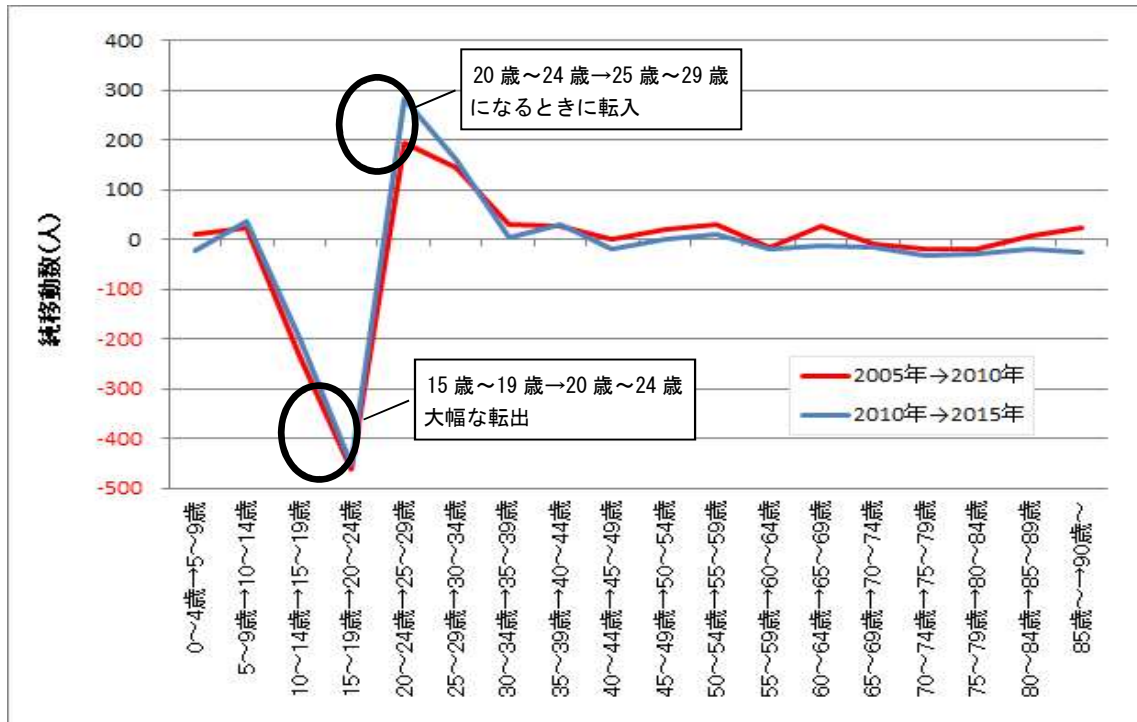
(出所) 新潟県福祉保健年報

図表 8 出産可能年齢の女性人口の推移



(出所) 総務省「国勢調査」

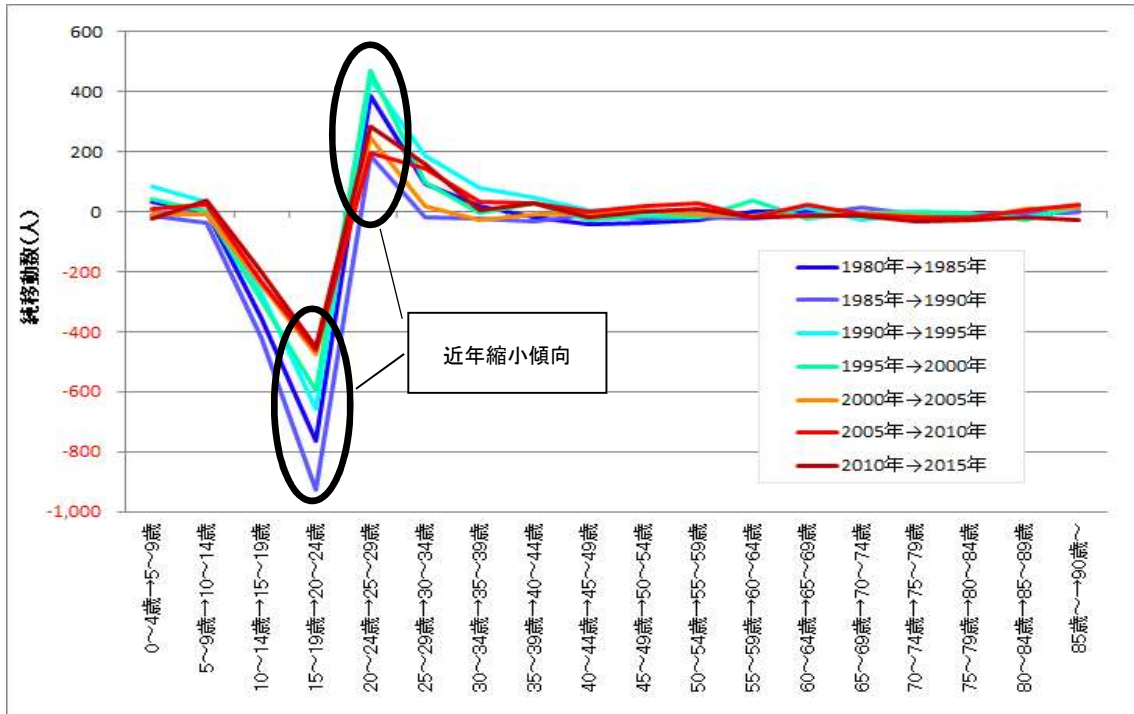
図表 9 年齢階級別の人口移動の状況（男性）



(出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※2005年以前の数値は、旧燕市、旧吉田町、旧分水町の合計

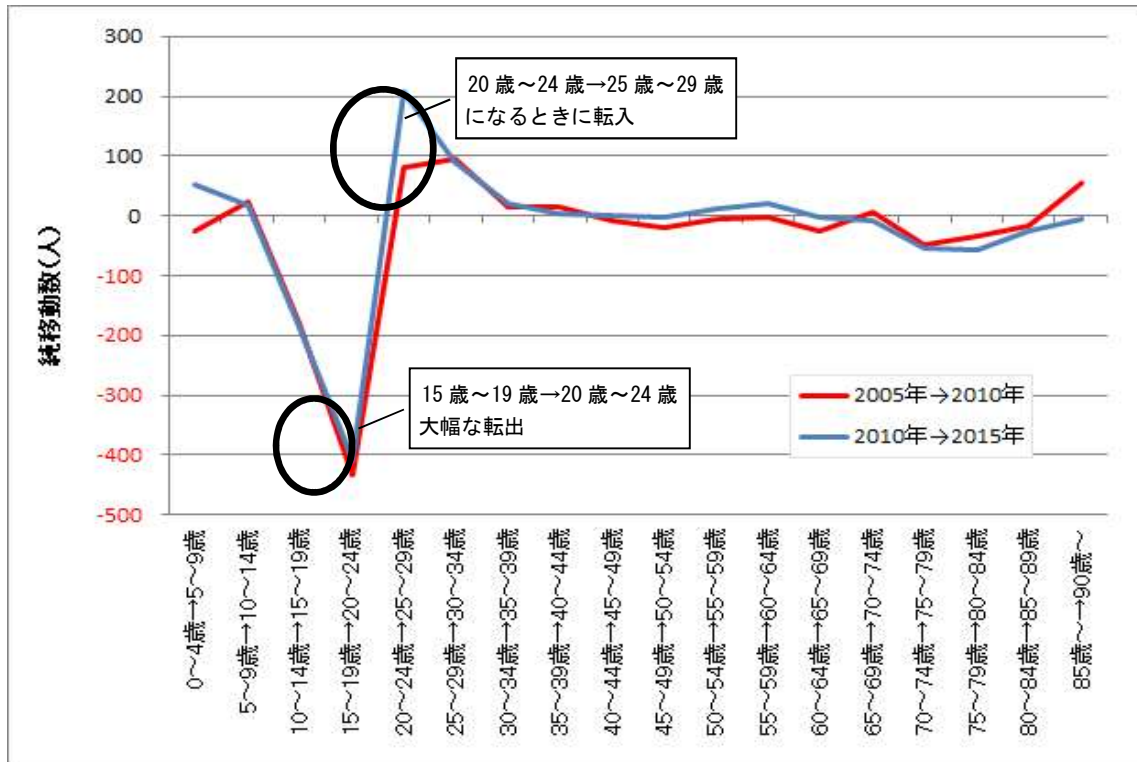
図表 10 年齢階級別の人口移動の長期的状況（男性）



(出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※2005年以前の数値は、旧燕市、旧吉田町、旧分水町の合計

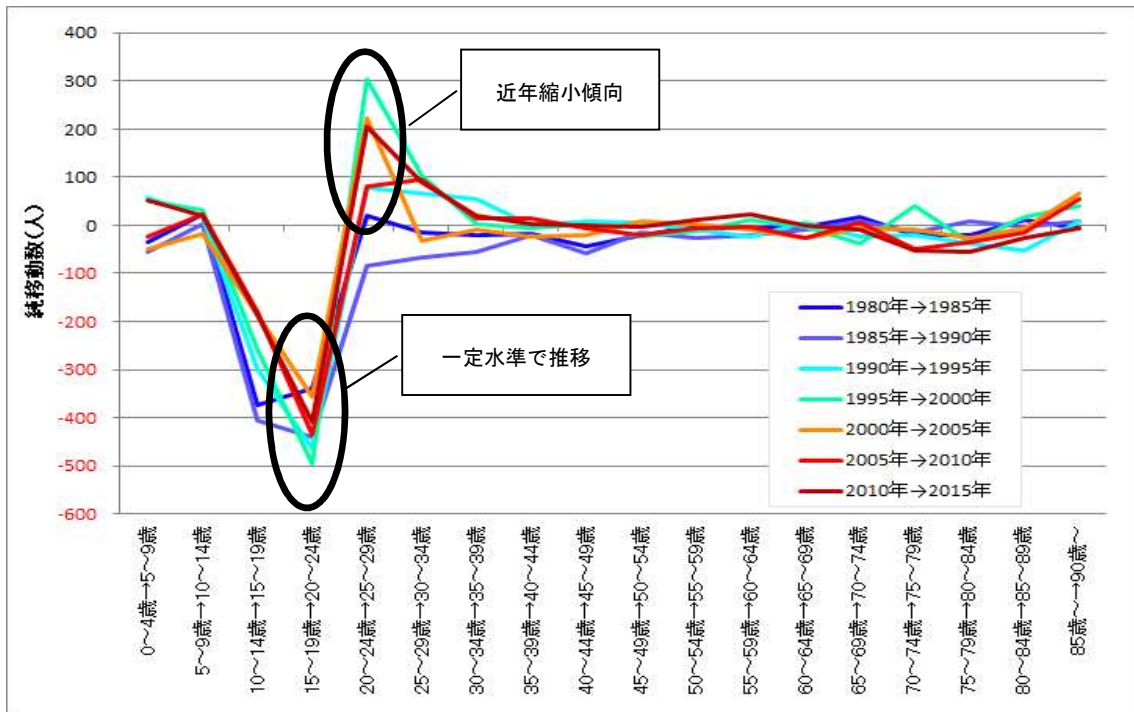
図表 11 年齢階級別の人口移動の状況（女性）



(出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※2005年以前の数値は、旧燕市、旧吉田町、旧分水町の合計

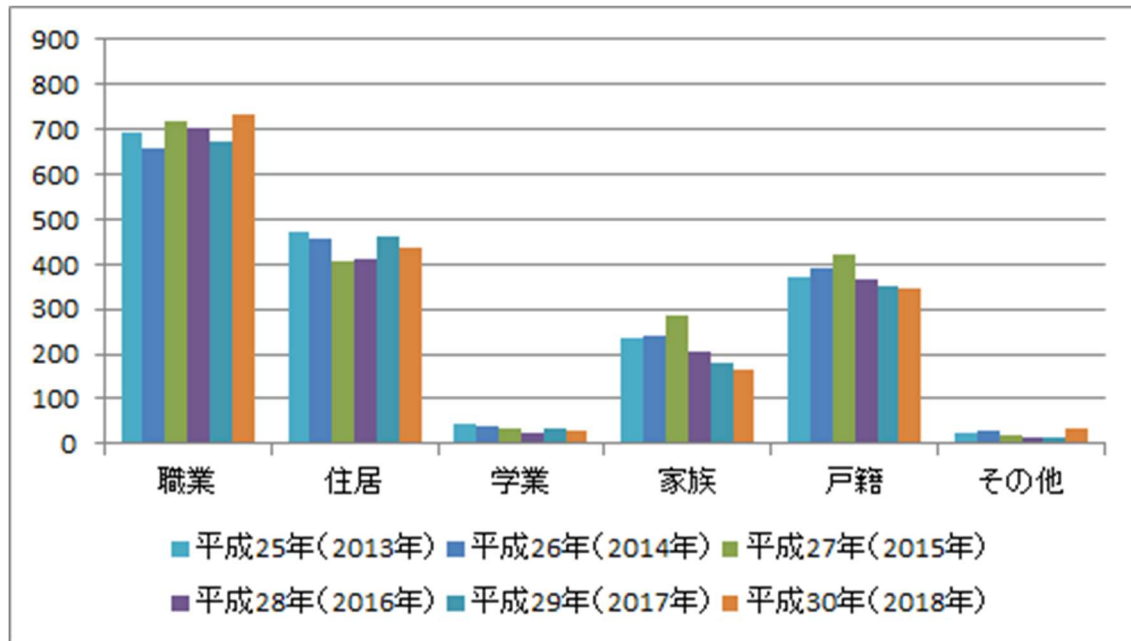
図表 12 年齢階級別の人口移動の長期的状況（女性）



(出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

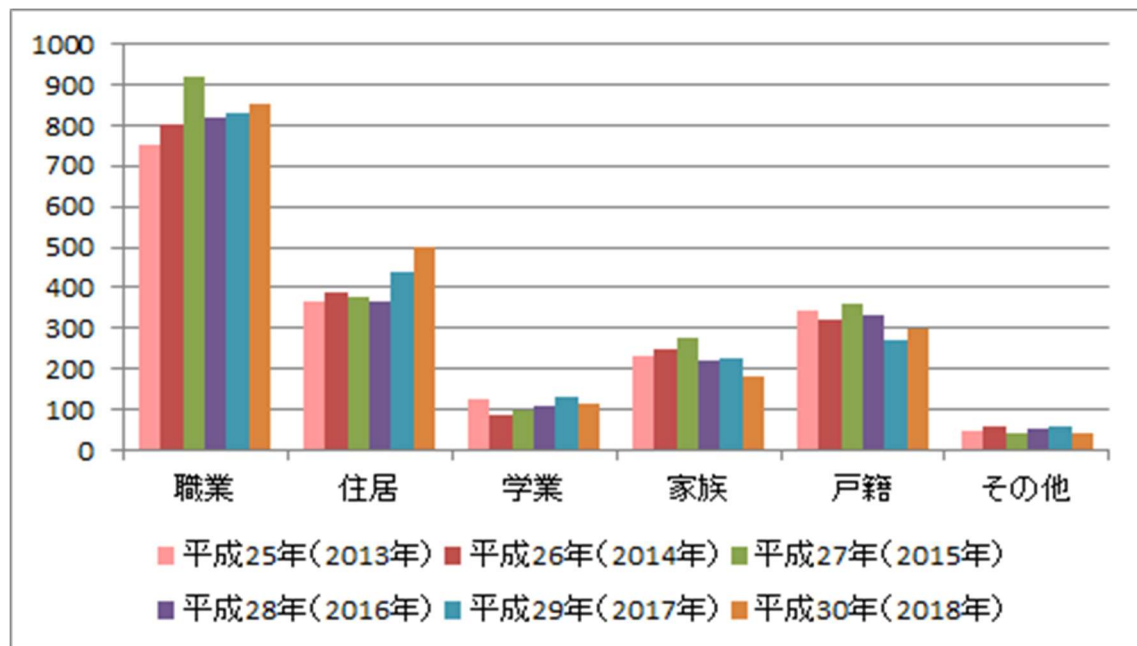
※2005年以前の数値は、旧燕市、旧吉田町、旧分水町の合計

図表 13 転入理由



(出所) 燕市市民課提供データ

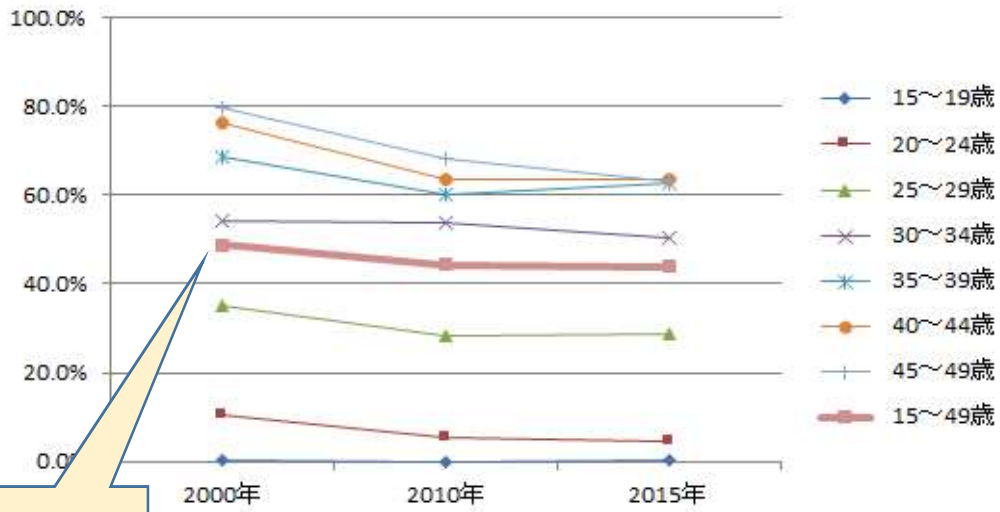
図表 14 転出理由



(出所) 燕市市民課提供データ

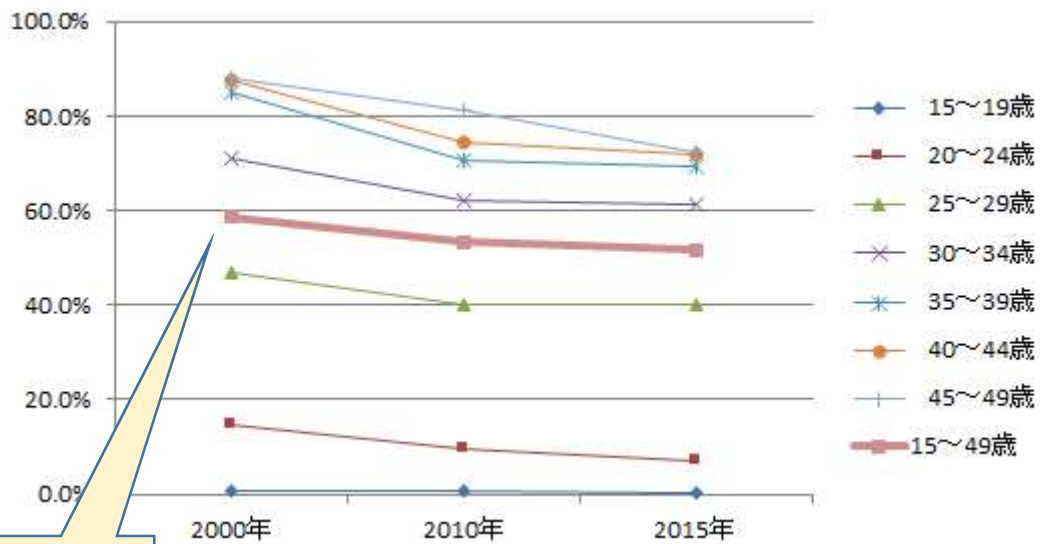
図表 15 婚姻率の推移

男性



15～49 歳婚姻率
 2000年：48.7%
 2010年：44.4%
 2015年：43.9%

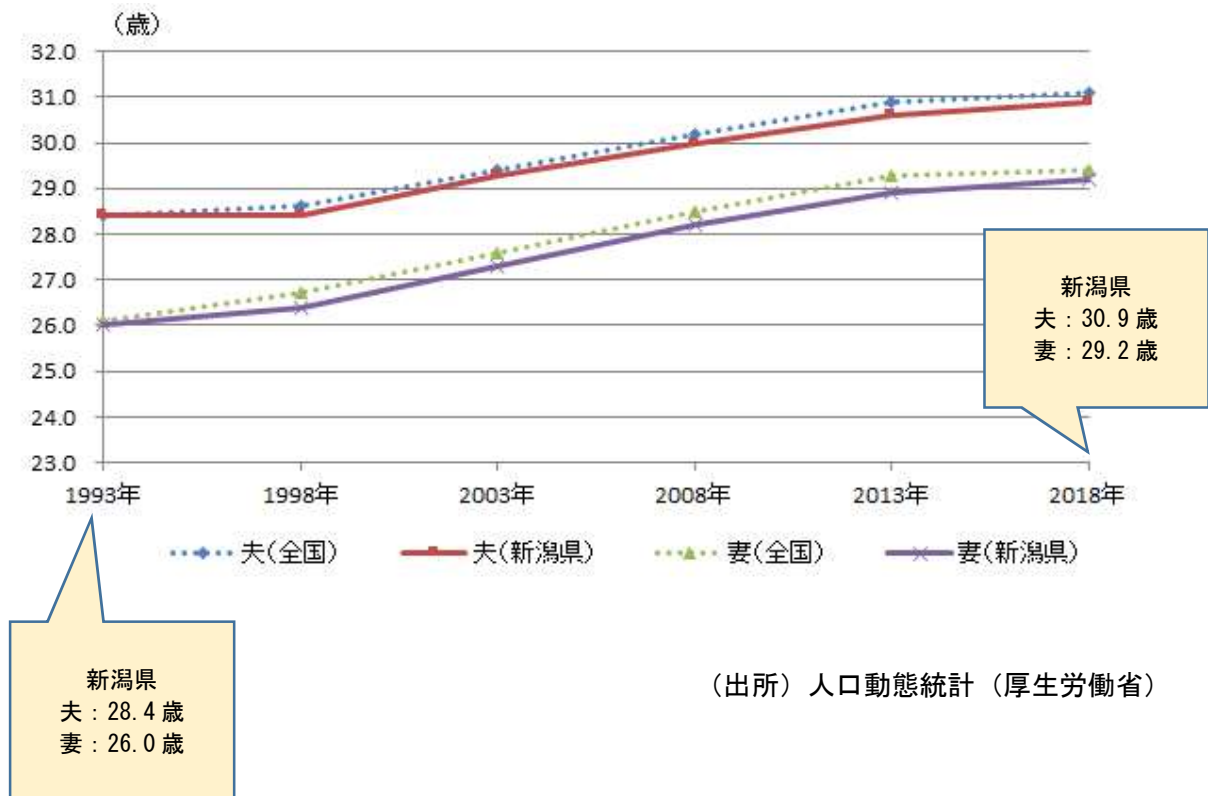
女性



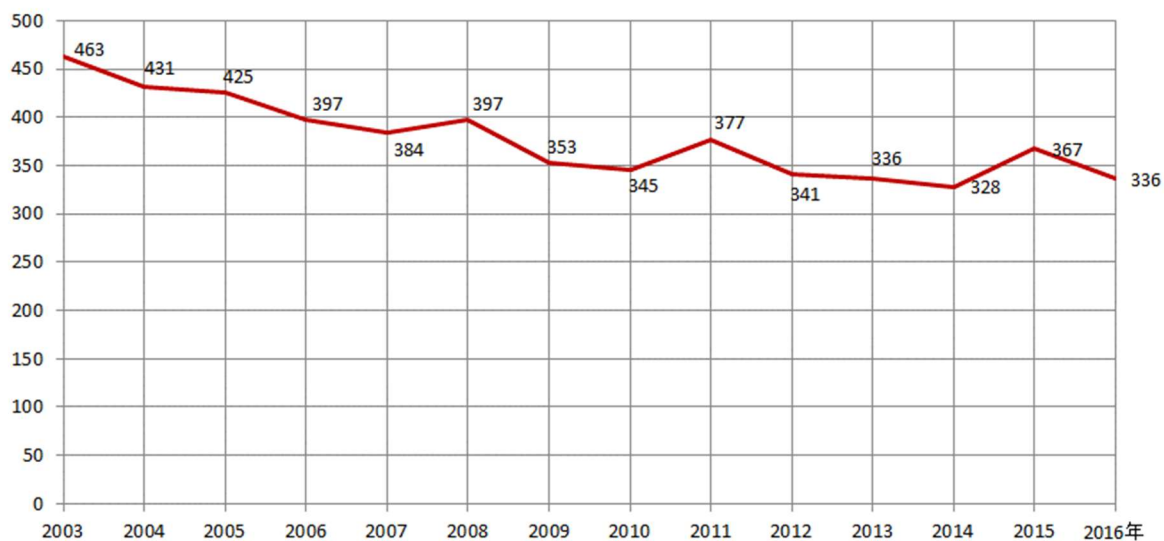
15～49 歳婚姻率
 2000年：58.6%
 2010年：53.4%
 2015年：51.6%

(出所) 総務省「国勢調査」

図表 16 初婚年齢の推移（新潟県）

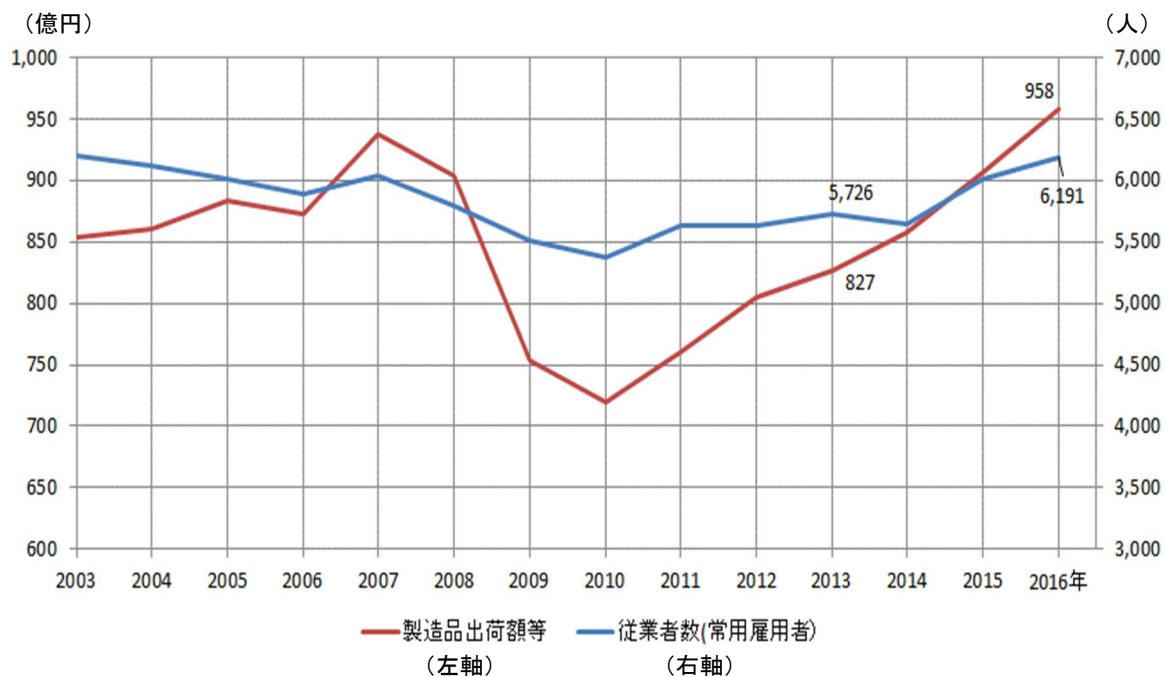


図表 17 事業所数の推移（金属製品製造業）



（出所）工業統計

図表 18 製造品出荷額等・従業員数の推移（金属製品製造業）



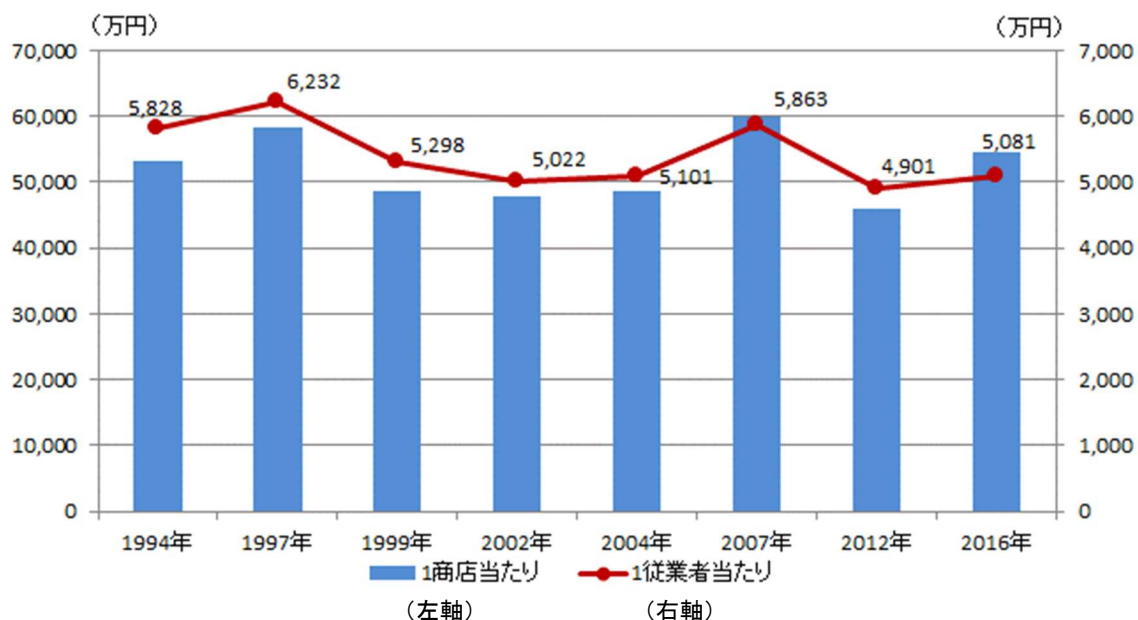
（出所）工業統計

図表 19 1事業所／1事業者当たりの製造品出荷額等の推移



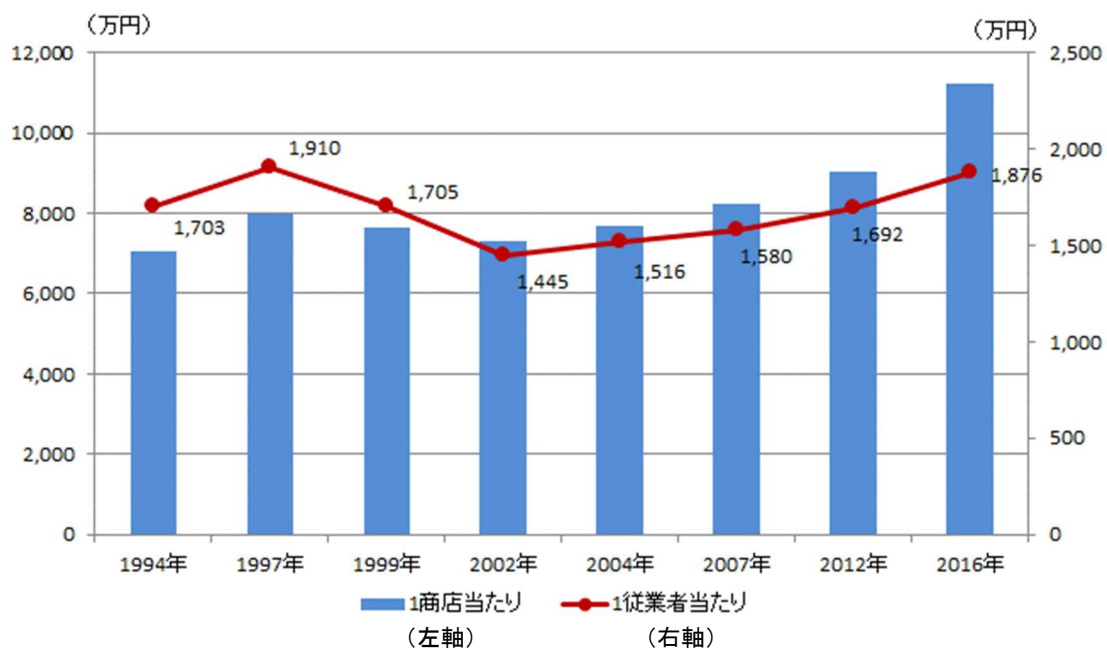
(出所) 工業統計

図表 20 卸売業の従業員一人当たり年間商品販売額



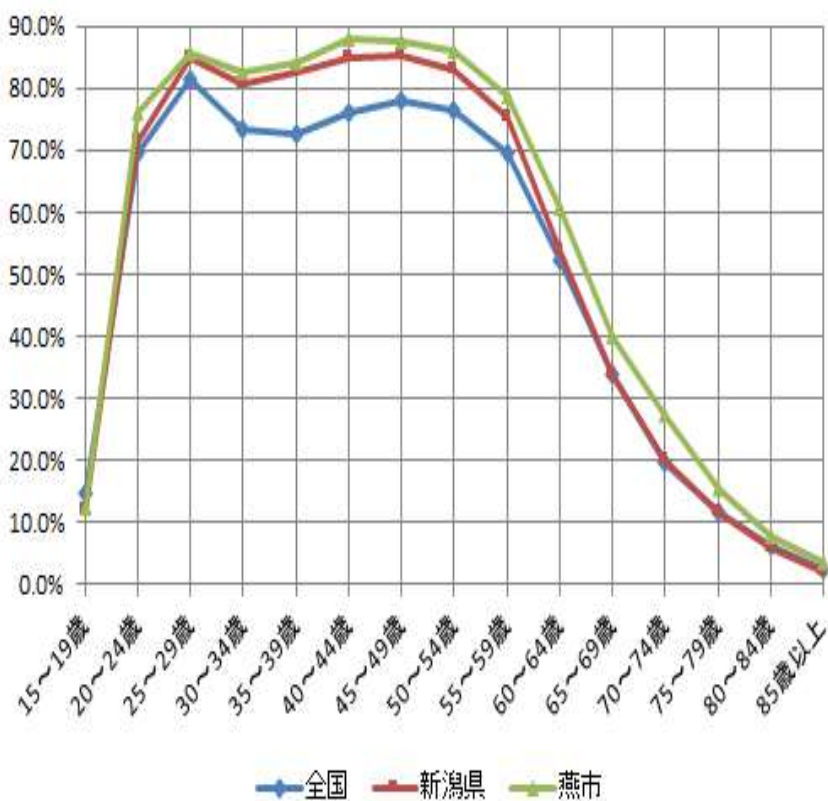
(出所) 商業統計、賃金センサス

図表 21 小売業の従業者一人当たり年間商品販売額

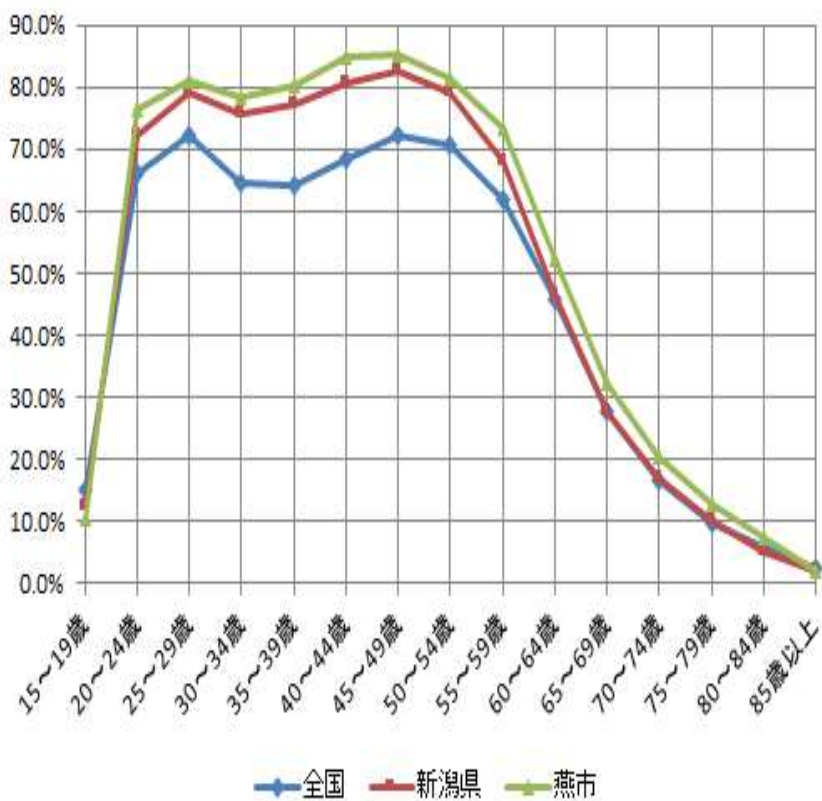


(出所) 商業統計、賃金センサス

図表 22 女性就業率
・ 2015 年【参考】 2010 年

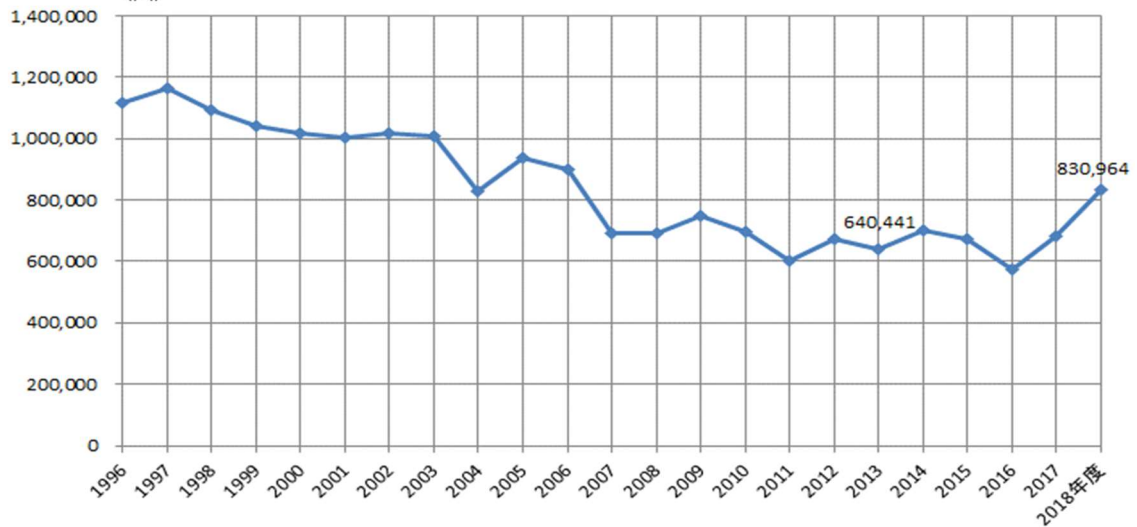


【参考】 2010 年



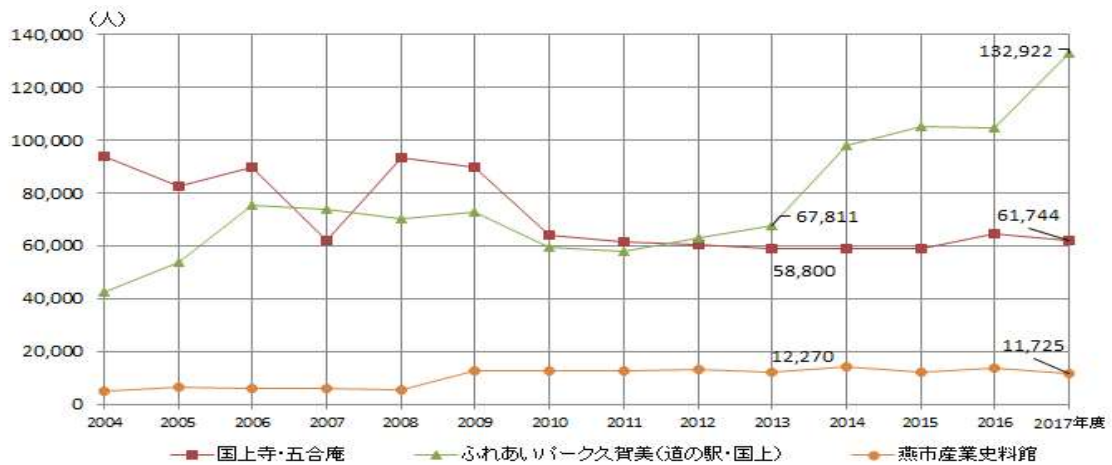
(出所) 総務省「国勢調査」

図表 23 観光客入込数
(人)



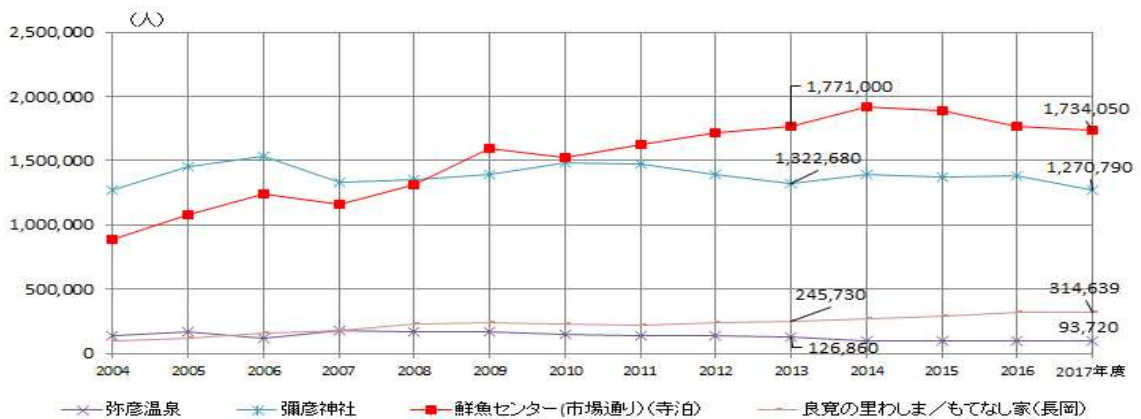
(出所) 新潟県観光入込客統計調査(2010年度～)、新潟県観光動態の概要(～2009年度)
※2011年以降は暦年で集計

図表 24 本市の観光地点別観光客入込数



(出所) 地点別・年度別観光入込客数(燕市資料)

図表 25 近隣の観光地点別観光客入込数



(出所) 新潟県観光入込客統計調査(2010年度～)、新潟県観光動態の概要(～2009年度) ※2011年以降は暦年で集計

2 策定経過

期 日	取 組 内 容 等
令和元年 4月22日(月)	経営会議（令和元年度第2回） ・第2期総合戦略の策定方針について協議
6月7日(金)	議員協議会 ・第2期総合戦略の策定方針について説明 協議題「第2次燕市総合計画の中間評価・見直しについて」において説明
7月3日(水)	第1回総合計画審議会 ・第2期燕総合戦略の策定方針について審議
7月31日(水)	経営会議（令和元年度第5回） ・第2期燕総合戦略の骨子について協議
8月5日(月)	第2回総合計画審議会 ・第2期総合戦略の骨子について審議
11月18日(月)	第3回総合計画審議会 ・第2期総合戦略の素案について審議
11月21日(木)	経営会議（令和元年度第9回） ・第2期総合戦略の素案について報告
12月3日(火)	議員協議会 ・第2期総合戦略の素案について説明
12月 日～ 令和2年 1月 日	パブリックコメントの実施
2月 日	第2回総合計画審議会 ・第2期総合戦略の最終案について審議
3月 日	議員協議会 ・第2期総合戦略の最終案について説明

3 燕市総合計画審議会委員名簿

条例上の 選出区分	氏名	団体名
関係行政機関の 委員および職員	山田 富美子	新潟県三条地域振興局長
	小田島 誠	巻公共職業安定所長
関係公共的団体の 役員および職員	田邊 一郎	燕市自治会協議会長
	山岡 重雄	燕市社会福祉協議会長
	佐藤 稔	燕市民生委員児童委員協議会長
	甲田 豊	燕市医師会長
	田邊 良文	燕市子ども・子育て会議副会長
	酒井 喜代太	越後中央農業協同組合 経営管理委員
	田野 隆夫	燕商工会議所会頭
	田中 淑子	吉田商工会 女性部長
	沖野 恵子	分水商工会 女性部
	末武 正広	新潟県央中小企業支援プラットフォーム 協栄信用組合常勤監事
	西川 志郎	日本労働組合総連合会 新潟県連合会県央地域協議会燕支部長
識見を有する者	宍戸 邦久	新潟大学教授
	樋口 秀	新潟工科大学教授
	中川 佳代子	分水高等学校長
	廣田 徹	第四銀行 燕支店長
	大塚 正直	北越銀行 燕中央支店長
	真島 美穂	つばめ若者会議
	清水レイ子	つばめ生活学校
	廣川 智美	活動☆つばめこまち応援隊 リーダー
公募により 選任された者	山口 博幸	
	小田 吉徳	